

人と防災未来センター平成 24 年度年次報告書 目次

センター長ご挨拶

人と防災未来センターのミッション・事業ごとのサブミッション

平成 24 年度を振り返って

I 章 展示

1 節	利用者の動向	2
2 節	常設展示の概要	17
3 節	企画展の概要	29
4 節	運営ボランティアの活動等	47
5 節	VIP 等の視察対応	50

II 章 資料収集・保存

1 節	資料収集と整理	54
2 節	資料室における相談業務・情報発信	57
3 節	震災資料の活用	61
4 節	資料を通じた交流・ネットワーク	63

III 章 実践的な防災研究と若手防災専門家の育成

1 節	実践的な防災研究と若手防災専門家の考え方について	68
2 節	研究員の取り組み	70
3 節	中核的研究プロジェクトおよび特定研究プロジェクトの推進について	114
4 節	研究員等の多彩な活動	123
5 節	研究成果の発信	125

IV 章 災害対策専門職員の育成

1 節	災害対策専門研修	128
2 節	フォローアップセミナー	137
3 節	国際協力機構（JICA）からの受託研修等	138

V 章 災害対応の現地支援

1 節	平成 24 年度災害対応の現地支援のしくみ	140
2 節	災害対応の現地支援	141

VI章 交流・ネットワーク

1 節 国際防災・人道支援協議会の活動	144
2 節 友の会	149
3 節 情報発信	150

VII章 人と防災未来センター開設 10 周年記念事業

1 節 人と防災未来センター開設 10 周年記念事業	160
----------------------------	-----

VIII章 事業評価委員会

1 節 事業評価委員会	164
-------------	-----

参考資料

資料 1 整備の趣旨・目的	166
資料 2 施設概要	168
資料 3 沿革	169
資料 4 組織	171
資料 5 平成 24 年度人と防災未来センター特別会計収支予算書	172
資料 6 資料室のあらまし	173
(1) 資料室の概要	
(2) 震災資料の収集・保存事業の経緯	
(3) 資料室受け入れ図書件数、資料点数、閲覧件数	
(4) 人と防災未来センターにおける調査の流れと データベース(資料点数)の関連	
資料 7 新聞記事がとりあげた人と防災未来センター	180
資料 8 研修カリキュラム表	181
資料 9 センター刊行物	189

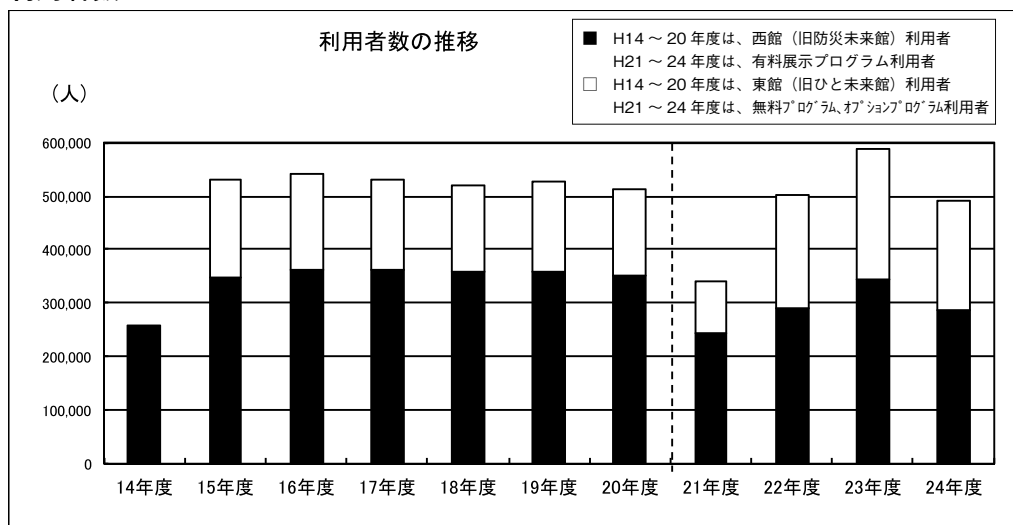
I 章 展示

- 1 利用者の動向
- 2 常設展示の概要
- 3 企画展の概要
- 4 運営ボランティアの活動等
- 5 VIP 等の視察対応

I章 展示

1節 利用者の動向

1 利用者数



〔平成14～20年度〕

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	小計(H14-20)
利用者数(人)	256,789	532,173	540,622	531,485	520,016	525,624	513,092	3,419,801
西館(旧防災未来館)	256,789	349,584	362,409	363,516	359,571	358,163	351,263	2,401,295
東館(旧ひと未来館)	—	182,589	178,213	167,969	160,445	167,461	161,829	1,018,506
1日平均利用者数(人)	870	1,700	1,733	1,703	1,646	1,679	1,639	1,573
西館(旧防災未来館)	870	1,117	1,162	1,165	1,138	1,144	1,122	1,105
東館(旧ひと未来館)	—	583	571	538	508	535	517	468
営業日数(日)	295	313	312	312	316	313	313	2,174

〔平成21～24年度〕

	21年度	22年度	23年度	24年度	小計(H21-24)	合計(H14-24)
利用者数(人)	341,010	502,865	588,731	490,131	1,922,737	5,342,538
有料展示プログラム	243,134	292,092	342,507	286,915	1,164,648	
無料・オプションプログラム	97,876	210,773	246,224	203,216	758,089	
1日平均利用者数(人)	1,111	1,612	1,881	1,566	1,544	1,563
有料展示プログラム	792	936	1,094	917	935	
無料・オプションプログラム	319	676	787	649	609	
営業日数(日)	307	312	313	313	1,245	3,419

〔利用者数〕

※平成14年度の利用者数は防災未来館のみの利用者数。

平成14年4月27日 西館(旧防災未来館)オープン

平成15年4月26日 東館(旧ひと未来館)オープン(グランドオープン)

※平成15～20年度の利用者数は、西館(旧防災未来館)、東館(旧ひと未来館)それぞれの利用者数の合計数。

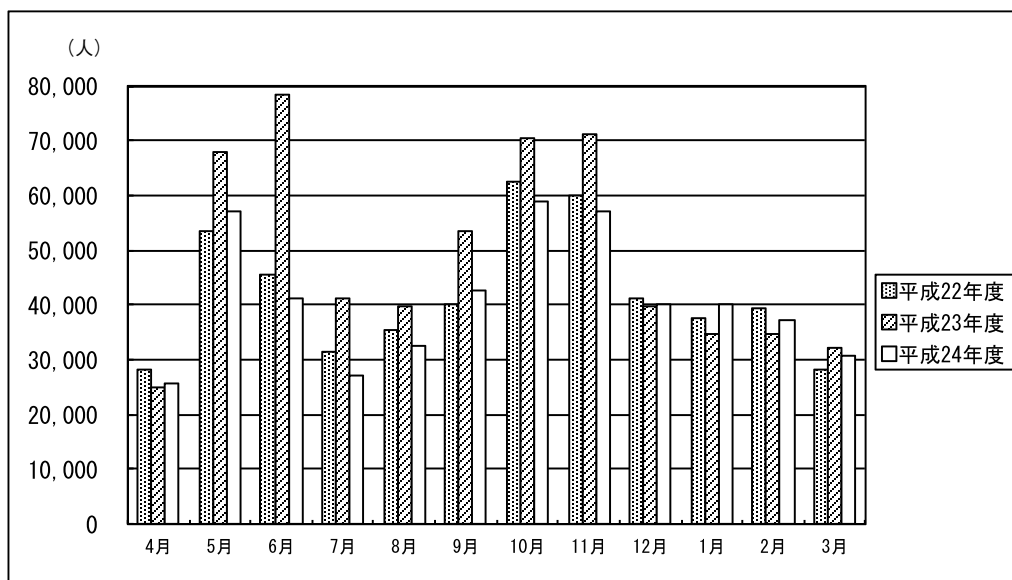
※平成21年度以降の利用者数は、有料展示プログラム利用者数に加え、資料室利用や各種の研修・ワークショップ・セミナー・イベント参加等の無料プログラムの利用者数及びこころのシアター利用等のオプションプログラムの利用者数の合計数。

(料金体系の変更、無料プログラムの増大等に伴い、利用者数算定の方法を、館区分別から有料・無料等プログラム区分別に変更。)

- ・平成21年度の利用者数が大幅に少ないのは、新型インフルエンザの兵庫県内発生による予約キャンセルや、その後の全国的なまん延による出控え、旅行自粛等の影響と考えられる。
- ・平成23年度の利用者数が増加しているのは、東日本大震災（H23.3.11）を機に、防災に対する関心が高まったこと、特に中部圏の学校等の団体が、震災等の影響で旅行先を関東から関西方面に変更したこと等によるものと考えられる。
- ・平成24年度の利用者数（無料のイベント参加等を含む）は490,131人（うち有料展示プログラム286,915人）で、前年度（平成23年度）に比べ83.3%（有料展示プログラムについては83.8%）となっている。これは、前年度に、東日本大震災を契機として利用者が増加したものが、ほぼ例年並みに戻ったためである。なお、前々年度（平成22年度）と比べると97.5%（有料展示プログラムについては98.2%）となっている。
- ・センター開設以降の利用者数は、平成24年7月27日に延べ500万人を超えた。

2 利用者の月別状況

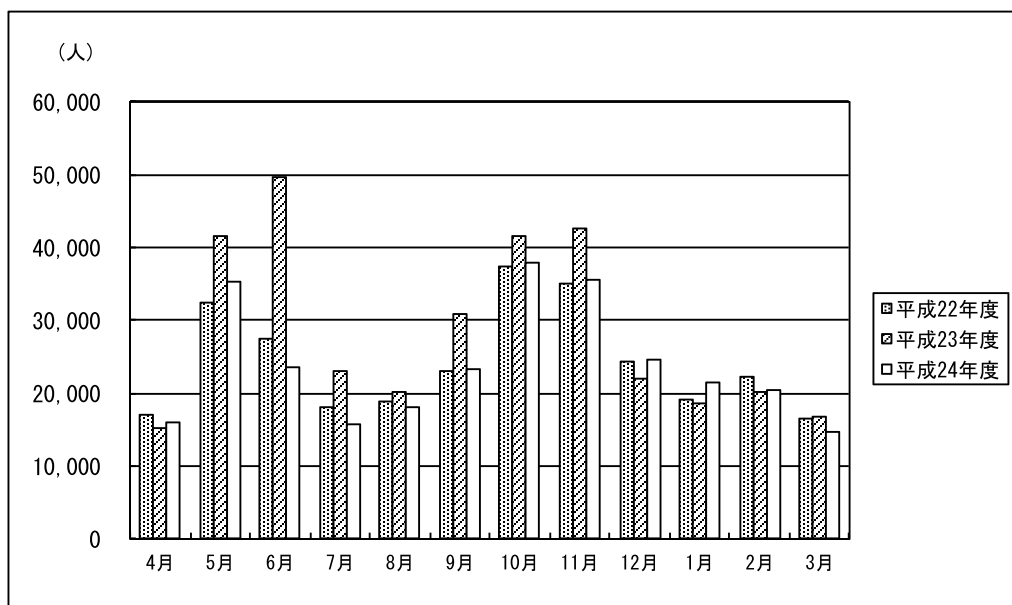
(1) 利用者全体



(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成14年度	4,512	27,626	25,056	19,762	18,435	23,141	37,616	36,244	13,238	16,952	18,380	15,827	256,789
平成15年度	19,690	56,046	49,018	42,526	39,324	40,887	75,822	70,871	28,463	33,412	37,907	38,207	532,173
平成16年度	30,251	60,068	43,598	34,698	38,540	36,154	67,234	67,857	32,749	45,242	42,610	41,621	540,622
平成17年度	32,301	58,348	46,947	35,495	34,731	45,972	71,306	72,367	29,237	32,430	37,505	34,846	531,485
平成18年度	31,175	57,664	42,676	32,524	35,361	43,656	72,918	75,236	28,027	34,605	34,715	31,459	520,016
平成19年度	28,983	62,099	43,890	27,626	35,943	42,644	75,466	76,403	30,189	39,949	35,461	26,971	525,624
平成20年度	27,656	60,722	45,097	29,446	33,088	39,862	79,334	70,953	29,024	38,846	33,548	25,516	513,092
平成21年度	22,627	20,918	11,928	21,257	19,932	31,053	49,590	39,338	29,685	41,611	31,100	21,971	341,010
平成22年度	28,198	53,336	45,600	31,448	35,405	40,120	62,536	59,809	41,134	37,676	39,310	28,293	502,865
平成23年度	24,893	68,035	78,503	41,048	39,611	53,558	70,397	71,320	39,811	34,856	34,648	32,051	588,731
平成24年度	25,824	57,044	41,098	27,001	32,405	42,609	58,966	57,252	40,052	40,027	37,113	30,740	490,131

(2) 有料展示プログラム利用者のみ



(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成22年度	17,005	32,445	27,386	18,216	18,773	23,176	37,482	35,170	24,458	19,195	22,215	16,571	292,092
平成23年度	15,122	41,458	49,617	23,151	20,258	30,902	41,641	42,753	22,026	18,563	20,215	16,801	342,507
平成24年度	16,109	35,411	23,645	15,833	18,022	23,330	37,812	35,504	24,527	21,616	20,316	14,790	286,915

・平成24年度は、例年と同様に、修学旅行等のシーズンである5～6月及び10～11月が多い。

3 観覧者（有料展示プログラム利用者）の区分別状況

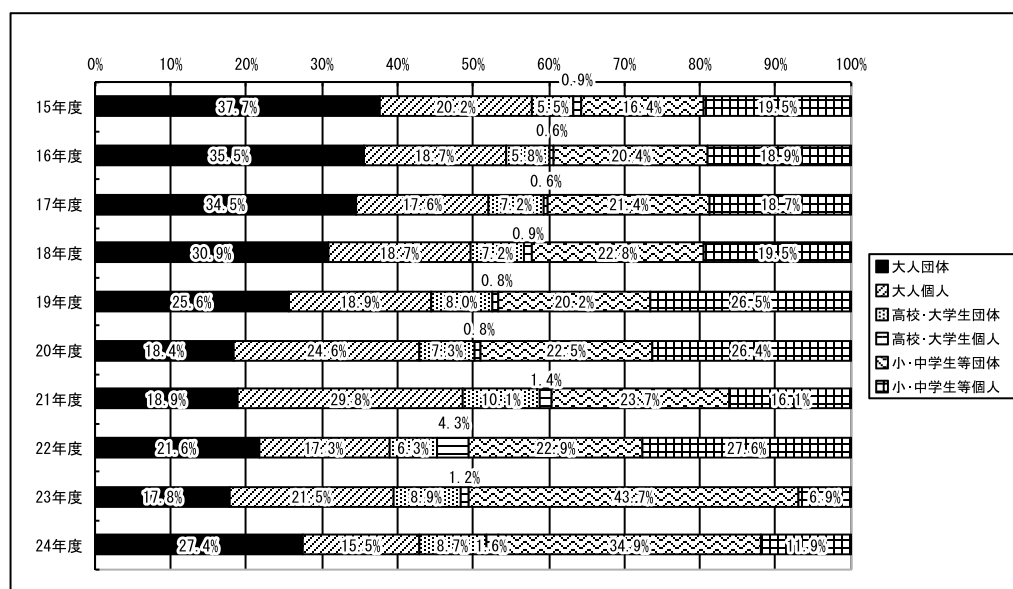
「観覧者」
 ※利用者のうち有料展示プログラム利用者を指す。(発券記録等を基にして「団体予約」・「個人」の2区分ごと、また「大人」・「高校・大学生」・「小・中学生等」の3区分ごとに集計。)

(上段：人数)
 (下段：構成比率)

区分	団体予約										
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
大人	-	200,525 37.7%	192,071 35.5%	183,423 34.5%	160,634 30.9%	134,627 25.6%	94,263 18.4%	45,846 18.9%	63,106 21.6%	61,080 17.8%	78,645 27.4%
高校・大学生	-	29,178 5.5%	31,365 5.8%	38,365 7.2%	37,287 7.2%	42,206 8.0%	37,584 7.3%	24,668 10.1%	18,514 6.3%	30,343 8.9%	24,993 8.7%
小・中学生等	-	87,054 16.4%	110,397 20.4%	113,779 21.4%	118,431 22.8%	105,972 20.2%	115,542 22.5%	57,633 23.7%	66,895 22.9%	149,687 43.7%	100,246 34.9%
計	147,515 57.4%	316,757 59.5%	333,833 61.7%	335,567 63.1%	316,352 60.8%	282,805 53.8%	247,389 48.2%	128,147 52.7%	148,515 50.8%	241,110 70.4%	203,884 71.1%

区分	個人										
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
大人	-	107,283 20.2%	101,311 18.7%	93,517 17.6%	97,494 18.7%	99,162 18.9%	126,037 24.6%	72,437 29.8%	50,493 17.3%	73,769 21.5%	44,495 15.5%
高校・大学生	-	4,589 0.9%	3,467 0.6%	3,161 0.6%	4,855 0.9%	4,307 0.8%	4,175 0.8%	3,514 1.4%	12,511 4.3%	4,054 1.2%	4,510 1.6%
小・中学生等	-	103,544 19.5%	102,011 18.9%	99,240 18.7%	101,315 19.5%	139,350 26.5%	135,491 26.4%	39,036 16.1%	80,573 27.6%	23,574 6.9%	34,026 11.9%
計	109,274 42.6%	215,416 40.5%	206,789 38.3%	195,918 36.9%	203,664 39.2%	242,819 46.2%	265,703 51.8%	114,987 47.3%	143,577 49.2%	101,397 29.6%	83,031 28.9%

区分	合計										
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
大人	-	307,808 57.8%	293,382 54.3%	276,940 52.1%	258,128 49.6%	233,789 44.5%	220,300 42.9%	118,283 48.6%	113,599 38.9%	134,849 39.4%	123,140 42.9%
高校・大学生	-	33,767 6.3%	34,832 6.4%	41,526 7.8%	42,142 8.1%	46,513 8.8%	41,759 8.1%	28,182 11.6%	31,025 10.6%	34,397 10.0%	29,503 10.3%
小・中学生等	-	190,598 35.8%	212,408 39.3%	213,019 40.1%	219,746 42.3%	245,322 46.7%	251,033 48.9%	96,669 39.8%	147,468 50.5%	173,261 50.6%	134,272 46.8%
計	256,789 100.0%	532,173 100.0%	540,622 100.0%	531,485 100.0%	520,016 100.0%	525,624 100.0%	513,092 100.0%	243,134 100.0%	292,092 100.0%	342,507 100.0%	286,915 100.0%



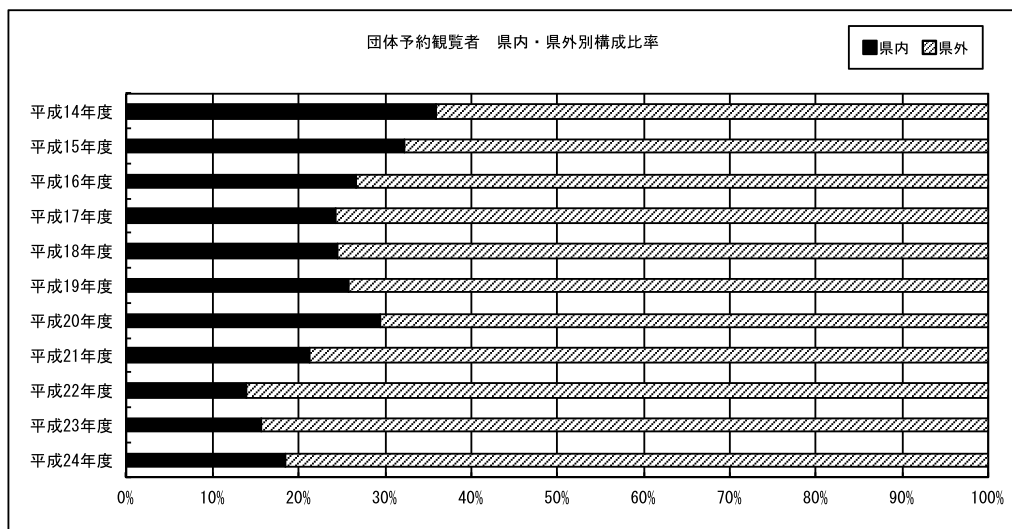
- ・平成24年度は、「団体予約」・「個人」別では、「団体予約」が71.1%で、前年度の70.4%に比べて0.7ポイント増えている。
- ・「大人」・「高校・大学生」・「小・中学生等」別では、「小・中学生等」が46.8%で半数弱を占め、「高校・大学生」を含めると全体の57.1%となっている。

4 団体予約観覧者（有料展示プログラム利用者）の状況

「団体予約観覧者」

※観覧者のうち団体予約による者を指す。（観覧予約申込書を基にして地域ごと、団体種類ごとに集計。）

(1) 県内・県外別

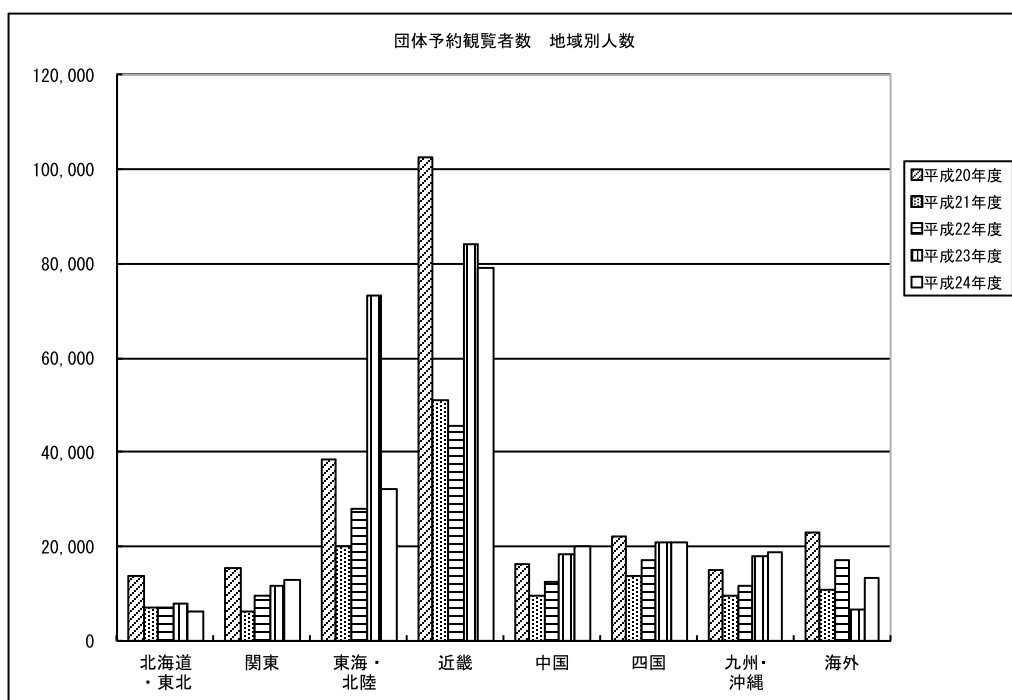


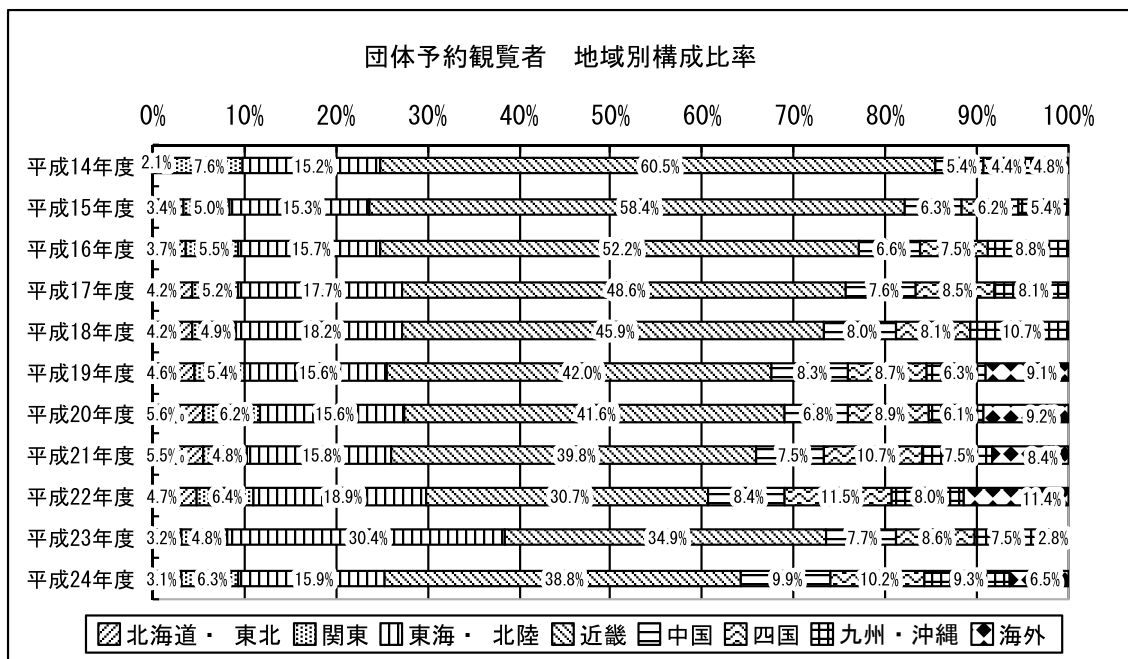
(単位：人)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
県内	53,110	102,424	89,331	81,839	77,537	72,640	72,906	27,367	20,530	37,757	37,429
構成比	36.0%	32.3%	26.8%	24.4%	24.5%	25.7%	29.5%	21.4%	13.8%	15.7%	18.4%
県外	94,405	214,333	244,502	253,728	238,815	210,165	174,483	100,780	127,985	203,353	166,455
構成比	64.0%	67.7%	73.2%	75.6%	75.5%	74.3%	70.5%	78.6%	86.2%	84.3%	81.6%
合計	147,515	316,757	333,833	335,567	316,352	282,805	247,389	128,147	148,515	241,110	203,884
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・平成24年度は、「県外」が81.6%で、前年度と同様に80%を超えている。

(2) 地域（ブロック）別





(上段：人数)

(下段：構成比率)

	北海道・東北	関東	東海・北陸	近畿	中国	四国	九州・沖縄	海外	計
平成14年度	3,139	11,153	22,462	89,275	7,970	6,477	7,039	—	147,515
	2.1%	7.6%	15.2%	60.5%	5.4%	4.4%	4.8%	—	100.0%
平成15年度	10,917	15,740	48,530	184,974	20,017	19,741	16,838	—	316,757
	3.4%	5.0%	15.3%	58.4%	6.3%	6.2%	5.3%	—	100.0%
平成16年度	12,185	18,322	52,312	174,333	22,175	25,196	29,310	—	333,833
	3.7%	5.5%	15.7%	52.2%	6.6%	7.5%	8.8%	—	100.0%
平成17年度	13,949	17,551	59,368	163,183	25,597	28,617	27,302	—	335,567
	4.2%	5.2%	17.7%	48.6%	7.6%	8.5%	8.1%	—	100.0%
平成18年度	13,350	15,406	57,608	145,237	25,403	25,625	33,723	—	316,352
	4.2%	4.9%	18.2%	45.9%	8.0%	8.1%	10.7%	—	100.0%
平成19年度	12,895	15,568	44,059	118,946	23,422	24,536	17,768	25,611	282,805
	4.6%	5.5%	15.6%	42.1%	8.3%	8.7%	6.3%	9.1%	100.0%
平成20年度	13,906	15,332	38,636	102,705	16,464	21,982	15,042	22,823	247,389
	5.6%	6.2%	15.6%	41.5%	6.7%	8.9%	6.1%	9.2%	100.0%
平成21年度	7,030	6,097	20,185	51,184	9,576	13,774	9,581	10,720	128,147
	5.5%	4.8%	15.8%	39.9%	7.5%	10.7%	7.5%	8.4%	100.0%
平成22年度	6,951	9,475	28,019	45,590	12,493	17,150	11,854	16,983	148,515
	4.7%	6.4%	18.9%	30.7%	8.4%	11.5%	8.0%	11.4%	100.0%
平成23年度	7,780	11,661	73,382	84,186	18,452	20,838	18,068	6,743	241,110
	3.2%	4.8%	30.4%	34.9%	7.7%	8.6%	7.5%	2.8%	100.0%
平成24年度	6,288	12,784	32,363	79,159	20,144	20,850	18,965	13,331	203,884
	3.1%	6.3%	15.9%	38.8%	9.9%	10.2%	9.3%	6.5%	100.0%

・平成24年度は、「近畿」が79,159人、構成比38.8%で最も多いが、長期的に見ると減少傾向にある。

・前年度と比べて「中国」、「四国」、「九州・沖縄」が増加している。前年度に大幅に増加した「東海・北陸」は、例年並に戻った。

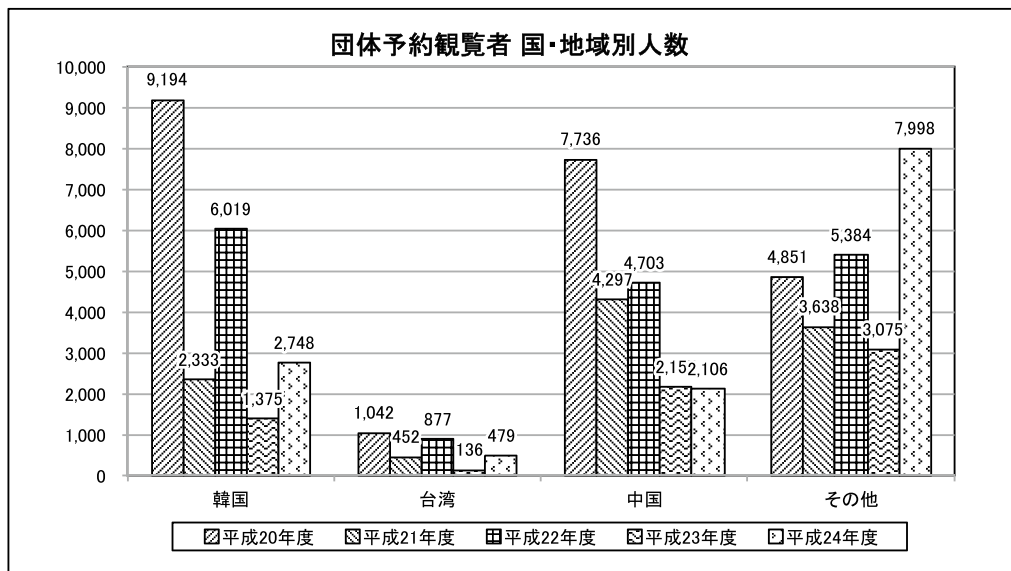
(3) 都道府県別

(単位：人)

ランキング	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1	兵庫県 53,110	兵庫県 102,424	兵庫県 89,331	兵庫県 81,839	兵庫県 77,537	兵庫県 72,640	兵庫県 72,906	兵庫県 27,367	兵庫県 20,530	兵庫県 40,934	兵庫県 37,429
2	大阪府 19,918	大阪府 37,164	大阪府 38,219	大阪府 38,223	大阪府 28,549	海外 25,611	海外 22,823	大阪府 11,011	海外 16,983	愛知県 38,063	大阪府 21,164
3	愛知県 7,367	愛知県 16,458	愛知県 17,441	愛知県 22,818	愛知県 21,334	大阪府 21,861	大阪府 22,600	海外 10,720	大阪府 10,829	大阪府 26,186	海外 13,331
4	京都府 4,859	和歌山県 12,988	和歌山県 14,600	和歌山県 14,190	和歌山県 10,850	愛知県 15,526	愛知県 14,849	愛知県 7,324	愛知県 9,712	三重県 14,815	愛知県 9,832
5	滋賀県 4,856	滋賀県 12,922	京都府 11,871	京都府 11,388	京都府 10,817	京都府 9,106	和歌山県 7,718	香川県 4,331	香川県 5,816	岐阜県 9,988	岡山県 7,774
6	和歌山県 3,753	京都府 10,303	滋賀県 10,548	岡山県 10,144	岡山県 9,837	岡山県 8,739	岡山県 7,229	和歌山県 3,813	三重県 4,821	岡山県 7,829	三重県 6,842
7	岐阜県 3,718	三重県 9,259	岡山県 9,836	奈良県 8,922	三重県 9,557	和歌山県 8,512	京都府 6,996	愛媛県 3,807	和歌山県 4,477	香川県 7,558	京都府 6,642
8	岡山県 3,363	奈良県 9,173	奈良県 9,764	高知県 8,748	滋賀県 8,757	愛媛県 7,579	香川県 6,553	京都府 3,664	高知県 4,357	京都府 6,952	熊本県 6,392
9	三重県 3,345	岡山県 7,820	高知県 8,920	三重県 8,634	岐阜県 7,504	三重県 6,844	愛媛県 6,352	三重県 3,609	京都府 4,323	海外 6,743	福岡県 6,146
10	東京都 3,066	高知県 7,818	三重県 8,110	滋賀県 8,621	高知県 7,370	熊本県 6,646	岐阜県 5,556	岡山県 3,479	福岡県 4,181	和歌山県 6,137	高知県 5,924

・平成24年度は、「兵庫県」が37,429人で第1位であるが、長期的に見ると減少傾向にある。

(4) 海外(国・地域別)

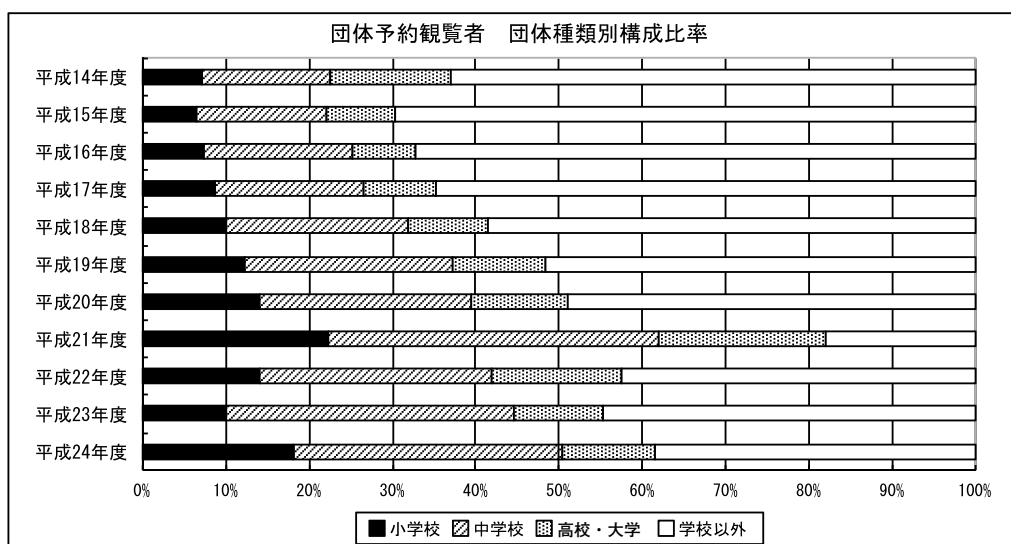


(単位：人)

	韓国	台湾	中国	その他	合計
平成20年度	9,194	1,042	7,736	4,851	22,823
平成21年度	2,333	452	4,297	3,638	10,720
平成22年度	6,019	877	4,703	5,384	16,983
平成23年度	1,375	136	2,157	3,075	6,743
平成24年度	2,748	479	2,106	7,998	13,331

- ・平成24年度の海外からの団体予約観覧者は13,331人で、東日本大震災や原発事故等の影響で減少した平成23年度6,743人に比べて約2倍となった。
- ・海外のうち韓国、台湾及び中国からの観覧者が、従来は半数以上を占めていたが、平成24年度は40%にとどまり、その他の国（アメリカ、タイ、ベトナム、マレーシア等）が増加している。

(5) 団体種類別

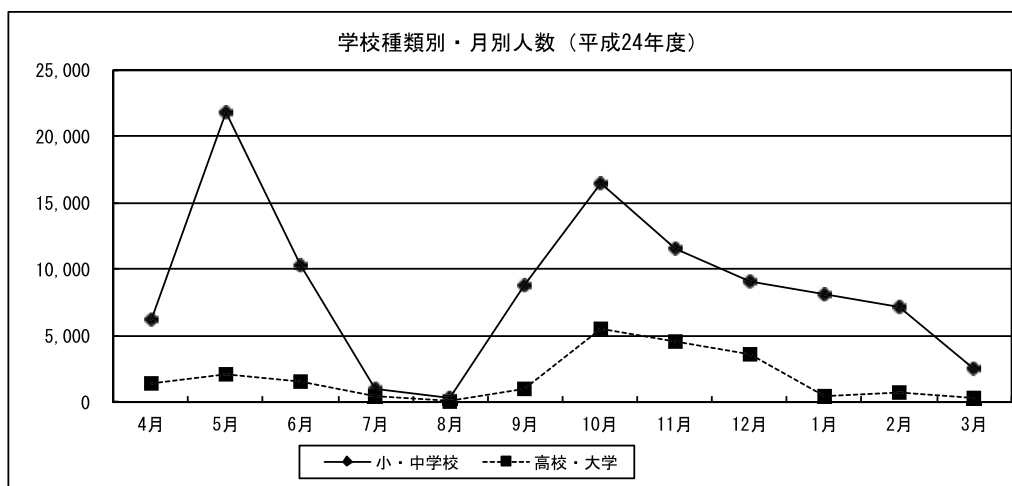


(上段：人数)

(下段：構成比率)

	学校				学校以外	合計
	小学校	中学校	高校・大学			
平成14年度	53,578 36.3%	10,312 7.0%	22,243 15.1%	21,023 14.3%	93,937 63.7%	147,515 100.0%
平成15年度	95,941 30.3%	20,597 6.5%	49,552 15.6%	25,792 8.1%	220,816 69.7%	316,757 100.0%
平成16年度	109,135 32.7%	24,629 7.4%	59,158 17.7%	25,348 7.6%	224,698 67.3%	333,833 100.0%
平成17年度	118,509 35.3%	29,064 8.7%	59,704 17.8%	29,741 8.9%	217,058 64.7%	335,567 100.0%
平成18年度	131,385 41.5%	32,005 10.1%	68,777 21.7%	30,603 9.7%	184,967 58.5%	316,352 100.0%
平成19年度	137,061 48.5%	34,923 12.3%	70,257 24.8%	31,881 11.3%	145,744 51.5%	282,805 100.0%
平成20年度	126,544 51.2%	34,893 14.1%	62,795 25.4%	28,856 11.7%	120,845 48.8%	247,389 100.0%

平成21年度	105,097 82.0%	28,512 22.2%	50,900 39.7%	25,685 20.0%	23,050 18.0%	128,147 100.0%
平成22年度	85,538 57.6%	20,752 14.0%	41,518 28.0%	23,268 15.7%	62,977 42.4%	148,515 100.0%
平成23年度	133,068 55.2%	24,157 10.0%	83,562 34.7%	25,349 10.5%	108,042 44.8%	241,110 100.0%
平成24年度	125,214 61.4%	36,186 17.7%	67,159 32.9%	21,869 10.7%	78,670 38.6%	203,884 100.0%



（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小・中学校	6,267	21,764	10,274	1,051	310	8,776	16,459	11,583	9,079	8,124	7,187	2,471	103,345
高校・大学	1,446	2,081	1,584	411	104	968	5,521	4,500	3,652	451	771	380	21,869
合計	7,713	23,845	11,858	1,462	414	9,744	21,980	16,083	12,731	8,575	7,958	2,851	125,214

- ・平成24年度は、「学校」が61.4%を占めている。
- ・「学校」の中では「中学校」が半数以上を占め、月別では5～6月、10～11月が多くなっている。

5 来館者アンケートの概要

来館者の属性、来館動機、施設の評価等を把握するため、アンケート調査を実施した。調査結果の概要は次のとおり。

項目	内容
調査対象及び方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般来館者 ・ 調査票手渡し自記入（西館総合案内等にて配布） ・ 回収箱及び郵送により回収
実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成24年9月1日（土）～平成25年3月31日（日）
回答状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答数 390件 ・ 無効数 42件 ・ 有効回答数 348件（有効回答率：89%）

(1) 回答者の属性

①年代別

	標本数	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
回答数	348	118	20	33	30	13	26	15	93
比率 (%)	100.0	33.9	5.7	9.5	8.6	3.7	7.5	4.3	26.7

無回答者を除くと、10代が最も多く、次いで30代が多かった。
前回の調査と比較すると、20～50代の割合が減少している。

②性別

	標本数	男性	女性	無回答
回答数	348	100	127	121
比率 (%)	100.0	28.7	36.5	34.8

男女別では、女性の来館者の方が多かった。

年代別に見ると、「20代」「30代」「60代」は男性の方が多かったが、それ以外の年代については女性の方が多かった。

③住所地別

	標本数	神戸市内	兵庫県内	大阪市内	その他	無回答
回答数	348	46	61	13	102	126
比率 (%)	100.0	13.2	17.5	3.7	29.3	36.2

④職業等別

	標本数	小学生	中学生	高校生	大学生・専門学校生	自営業	会社員 (役員含む)	学校教員
回答数	348	58	27	18	9	9	38	10
比率 (%)	100.0	16.7	7.8	5.2	2.6	2.6	10.9	2.9
		公務員 (教員以外)	地域団体	専業主婦	無職	その他	無回答	
		14	5	13	19	8	120	
		4.0	1.4	3.7	5.5	2.3	34.5	

職業別に見ると、「小学生」が最も多く、次いで「会社員」、「中学生」であった。

(2) 来館行動

①同伴者 (1つ選択)

	標本数	ひとりで	家族と	友人・知人と	団体で	その他	無回答
回答数	348	42	60	26	111	7	102
比率 (%)	100.0	12.1	17.2	7.5	31.9	2.0	29.3
・年代別							
10代	118	4	28	14	62	4	6
	100.0	3.4	23.7	11.9	52.5	3.4	5.1
20代・30代	53	15	16	7	15	0	0
	100.0	28.3	30.2	13.2	28.3	0.0	0.0
40代・50代	43	11	12	2	13	2	3
	100.0	25.6	27.9	4.7	30.2	4.7	7.0
60代・70歳以上	41	12	4	3	18	1	3
	100.0	29.3	9.8	7.3	43.9	2.4	7.3
無回答	93	0	0	0	3	0	90
	100.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	96.8
・性別							
男性	100	20	19	12	44	1	4
	100.0	20.0	19.0	12.0	44.0	1.0	4.0
女性	127	13	37	14	54	5	4
	100.0	10.2	29.1	11.0	42.5	3.9	3.1
無回答	121	9	4	0	13	1	94
	100.0	7.4	3.3	0.0	10.7	0.8	77.7

	標本数	ひとりで	家族と	友人・知人と	団体で	その他	無回答
・住所地別							
神戸市内	46 100.0	14 30.4	15 32.6	9 19.6	5 10.9	1 2.2	2 4.3
兵庫県内	61 100.0	5 8.2	17 27.9	3 4.9	31 50.8	3 4.9	2 3.3
近畿圏内	38 100.0	7 18.4	10 26.3	3 7.9	16 42.1	1 2.6	1 2.6
その他の地域	76 100.0	13 17.1	13 17.1	8 10.5	40 52.6	1 1.3	1 1.3
無回答	127 100.0	3 2.4	5 3.9	3 2.4	19 15.0	1 0.8	96 75.6
・職業等別							
学生	112 100.0	4 3.6	30 26.8	14 12.5	58 51.8	4 3.6	2 1.8
民間就業者	47 100.0	15 31.9	10 21.3	5 10.6	15 31.9	0 0.0	2 4.3
学校教員	10 100.0	3 30.0	3 30.0	0 0.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0
公務員（教員以外）	14 100.0	3 21.4	3 21.4	3 21.4	5 35.7	0 0.0	0 0.0
地域団体等	18 100.0	4 22.2	6 33.3	0 0.0	8 44.4	0 0.0	0 0.0
無職・その他	27 100.0	10 37.0	3 11.1	2 7.4	9 33.3	1 3.7	2 7.4
無回答	120 100.0	3 2.5	5 4.2	2 1.7	13 10.8	1 0.8	96 80.0

全体：「団体で」訪れた来館者が最も多く、次いで「家族と」が多かった。
 年代別：20代は「家族と」訪れた来館者が多かったが、それ以外の世代では「団体で」が多かった。
 性別：男女ともに「団体で」訪れた来館者が最も多かった。男性は「団体で」に次いで「ひとりで」が多かったが、女性は「団体で」に次いで「家族と」が多かった。
 住所地別：「神戸市内」在住の来館者は「家族と」が最も多く、次いで「ひとりで」が多かった。それ以外の来館者は「団体で」が最も多く、次いで「家族と」が多かった。
 職業等別：「無職・その他」の来館者は「ひとりで」が多かったが、それ以外の来館者については「団体で」が多かった。

②観覧予約をしたかどうか（「団体で」と回答した者：1つ選択）

	標本数	はい	いいえ	無回答
回答数	111	58	21	32
比率 (%)	100.0	52.3	18.9	28.8

「団体で」訪れた来館者に「観覧予約をしたかどうか」を質問したところ、半数以上が「観覧予約をした」と回答した。

③来館回数（1つ選択）

	標本数	はじめて	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	無回答	平均
回答数	348	156	30	15	2	1	3	0	0	0	6	135	1.65
比率 (%)	100.0	44.8	8.6	4.3	0.6	0.3	0.9	0.0	0.0	0.0	1.7	38.8	

来館回数については、例年同様、「はじめて」の来館者が最も多かった。

④交通手段（複数選択）

	標本数	車	タクシー	バス	JR	阪神電車	阪急電車	徒歩	その他	無回答
回答数	348	44	10	79	35	40	21	34	12	121
比率 (%)	100.0	11.1	2.5	19.9	8.8	10.1	5.3	8.6	3.0	30.6
・住所別										
神戸市内	46	11 18.6	3 5.1	7 11.9	6 10.2	12 20.3	3 5.1	9 15.3	2 3.4	6 10.2
兵庫県内	61	11 15.1	2 2.7	16 21.9	12 16.4	6 8.2	11 15.1	9 12.3	1 1.4	5 6.8
近畿圏内	38	7 14.9	1 2.1	12 25.5	4 8.5	9 19.1	3 6.4	6 12.8	4 8.5	1 2.1
その他の地域	76	11 12.4	4 4.5	32 36.0	10 11.2	10 11.2	3 3.4	8 9.0	3 3.4	8 9.0
無回答	127	4 3.1	0 0.0	12 9.4	3 2.3	3 2.3	1 0.8	2 1.6	2 1.6	101 78.9

交通手段については、例年同様、「バス」での来館が最も多く、次いで「車」での来館が多かった。

「神戸市内」在住の来館者は「阪神電車」での来館が最も多かったが、それ以外の来館者は「バス」が最も多かった。

⑤認知手段（複数回答）

	標本数	新聞	雑誌	TV・ラジオ	講演会	ホームページ	ポスター・ちらし	学校・先生からの紹介	友人・知人・家族からの紹介	旅行代理店	各種団体から	その他	無回答
回答数	348	19	9	17	8	42	18	41	38	13	32	37	123
比率 (%)	100.0	4.8	2.3	4.3	2.0	10.6	4.5	10.3	9.6	3.3	8.1	9.3	31.0
・年代別													
10代	118	7 5.0	3 2.1	3 2.1	3 2.1	14 9.9	5 3.5	31 22.0	16 11.3	3 2.1	18 12.8	19 13.5	19 13.5
20代・30代	53	3 4.8	4 6.5	2 3.2	3 4.8	12 19.4	6 9.7	5 8.1	9 14.5	7 11.3	1 1.6	5 8.1	5 8.1
40代・50代	43	1 1.9	1 1.9	2 3.8	1 1.9	16 30.8	5 9.6	2 3.8	6 11.5	0 0.0	7 13.5	5 9.6	6 11.5
60代・70歳以上	41	7 15.6	1 2.2	9 20.0	1 2.2	0 0.0	2 4.4	1 2.2	6 13.3	2 4.4	5 11.1	7 15.6	4 8.9
無回答	93	1 1.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.1	1 1.0	1 1.0	1 1.0	1 1.0	89 91.8
・住所別													
神戸市内	46	6 10.3	1 1.7	1 1.7	2 3.4	6 10.3	9 15.5	10 17.2	6 10.3	1 1.7	1 1.7	11 19.0	4 6.9
兵庫県内	61	6 8.8	1 1.5	5 7.4	3 4.4	10 14.7	1 1.5	13 19.1	6 8.8	0 0.0	10 14.7	6 8.8	7 10.3
近畿圏内	38	2 4.5	3 6.8	3 6.8	1 2.3	2 4.5	3 6.8	6 13.6	11 25.0	1 2.3	6 13.6	4 9.1	2 4.5
その他の地域	76	0 0.0	3 3.5	4 4.7	1 1.2	19 22.4	2 2.4	5 5.9	11 12.9	9 10.6	11 12.9	10 11.8	10 11.8
無回答	127	5 3.5	1 0.7	4 2.8	1 0.7	5 3.5	3 2.1	7 4.9	4 2.8	2 1.4	4 2.8	6 4.2	100 70.4
・職業等別													
学生	112	6 4.2	4 2.8	3 2.1	3 2.1	12 8.4	6 4.2	33 23.1	18 12.6	5 3.5	18 12.6	19 13.3	16 11.2
民間就業者	47	3 5.9	1 2.0	5 9.8	1 2.0	10 19.6	4 7.8	1 2.0	9 17.6	4 7.8	4 7.8	6 11.8	3 5.9
学校教員	10	1 7.7	1 7.7	1 7.7	0 0.0	6 46.2	0 0.0	1 7.7	0 0.0	1 7.7	0 0.0	1 7.7	1 7.7
公務員(教員以外)	14	1 6.7	0 0.0	0 0.0	3 20.0	3 20.0	1 6.7	0 0.0	2 13.3	0 0.0	2 13.3	1 6.7	2 13.3
地域団体等	18	1 4.5	2 9.1	1 4.5	1 4.5	5 22.7	1 4.5	0 0.0	2 9.1	0 0.0	5 22.7	2 9.1	2 9.1
無職・その他	27	2 6.7	1 3.3	4 13.3	0 0.0	3 10.0	4 13.3	2 6.7	3 10.0	3 10.0	2 6.7	4 13.3	2 6.7
無回答	120	5 4.1	0 0.0	3 2.4	0 0.0	3 2.4	2 1.6	4 3.3	4 3.3	0 0.0	1 0.8	4 3.3	97 78.9

全体 : 当館の認知手段については、「無回答」を除くと、「ホームページ」「学校・先生からの紹介」「友人・知人・家族からの紹介」が多かった。

年代別 : 「10代」では「学校・先生からの紹介」、「20代～50代」は「ホームページ」、「60代・70歳以上」では「TV・ラジオ」が最も多かった。

住所地別 : 「神戸市内」「兵庫県内」の来館者は「学校・先生からの紹介」、「近畿」の来館者は「友人・知人・家族からの紹介(口コミ)」、「その他の地域」の来館者は「ホームページ」が最も多かった。

職業等別 : 「学生」は「学校・先生からの紹介」、「無職・その他」は「TV・ラジオ」「ポスター・ちらし」、それ以外の職業の来館者は「ホームページ」が最も多かった。

⑥来館動機(複数回答)

	標本数	阪神・淡路大震災の状況を知りたくて	防災に関する情報を知りたくて	語り部による被災体験を聞きたくて	専任研究員による防災セミナーに興味があって	知人・友人に勧められて	団体旅行に組み込まれていたため	学校行事で	会社・団体の行事で	東日本大震災をきっかけに	その他	無回答
回答数	348	105	59	17	13	30	20	24	31	51	22	131
比率(%)	100.0	20.9	11.7	3.4	2.6	6.0	4.0	4.8	6.2	10.1	4.4	26.0
・年代別												
10代	118	45 26.5	13 7.6	5 2.9	6 3.5	14 8.2	12 7.1	15 8.8	15 8.8	14 8.2	6 3.5	25 14.7
20代・30代	53	24 23.3	19 18.4	4 3.9	5 4.9	8 7.8	4 3.9	4 3.9	6 5.8	19 18.4	6 5.8	4 3.9
40代・50代	43	20 27.8	18 25.0	3 4.2	0 0.0	3 4.2	2 2.8	3 4.2	4 5.6	8 11.1	8 11.1	3 4.2
60代・70歳以上	41	16 25.4	9 14.3	5 7.9	2 3.2	3 4.8	2 3.2	1 1.6	5 7.9	9 14.3	2 3.2	9 14.3
無回答	93	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.1	0 0.0	1 1.1	1 1.1	1 1.1	0 0.0	90 94.7
・住所地別												
神戸市内	46	16 24.2	9 13.6	1 1.5	2 3.0	7 10.6	1 1.5	2 3.0	2 3.0	9 13.6	9 13.6	8 12.1
兵庫県内	61	26 29.2	10 11.2	2 2.2	2 2.2	7 7.9	4 4.5	7 7.9	6 6.7	11 12.4	5 5.6	9 10.1
近畿圏内	38	16 24.2	11 16.7	7 10.6	4 6.1	4 6.1	5 7.6	3 4.5	7 10.6	5 7.6	3 4.5	1 1.5
その他の地域	76	33 24.8	23 17.3	4 3.0	3 2.3	8 6.0	6 4.5	7 5.3	12 9.0	21 15.8	5 3.8	11 8.3
無回答	127	14 9.4	6 4.0	3 2.0	2 1.3	4 2.7	4 2.7	5 3.4	4 2.7	5 3.4	0 0.0	102 68.5
・職業等別												
学生	112	43 24.9	15 8.7	6 3.5	6 3.5	16 9.2	11 6.4	18 10.4	16 9.2	17 9.8	6 3.5	19 11.0
民間就業者	47	25 32.5	9 11.7	1 1.3	2 2.6	5 6.5	4 5.2	0 0.0	5 6.5	17 22.1	7 9.1	2 2.6
学校教員	10	4 25.0	5 31.3	1 6.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	3 18.8	1 6.3	0 0.0
公務員(教員以外)	14	5 22.7	6 27.3	2 9.1	1 4.5	2 9.1	0 0.0	0 0.0	3 13.6	1 4.5	0 0.0	2 9.1
地域団体等	18	10 30.3	9 27.3	2 6.1	0 0.0	1 3.0	2 6.1	1 3.0	1 3.0	3 9.1	2 6.1	2 6.1
無職・その他	27	10 17.5	11 19.3	4 7.0	3 5.3	5 8.8	2 3.5	2 3.5	2 3.5	8 14.0	6 10.5	4 7.0
無回答	120	8 6.4	4 3.2	1 0.8	0 0.0	1 0.8	1 0.8	3 2.4	3 2.4	2 1.6	0 0.0	102 81.6

全体 : 来館動機については、前回同様、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多く、次いで「防災に関する情報を知りたくて」、「東日本大震災をきっかけに」の順に多かった。

年代別：全世代において、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多かった。「10代」ではそれに次いで「学校行事で」「会社・団体の行事で」が上位を占めたが、それ以外の世代では「防災に関する情報を知りたくて」、「東日本大震災をきっかけに」が上位を占めた。

住所地別：全地域において、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多かった。それに次いで、「防災に関する情報を知りたくて」、「東日本大震災をきっかけに」が上位を占めた。

職業等別：「学校教員」「公務員」「無職・その他」の来館者は「防災に関する情報を知りたくて」が最も多かったが、それ以外の来館者は「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多かった。

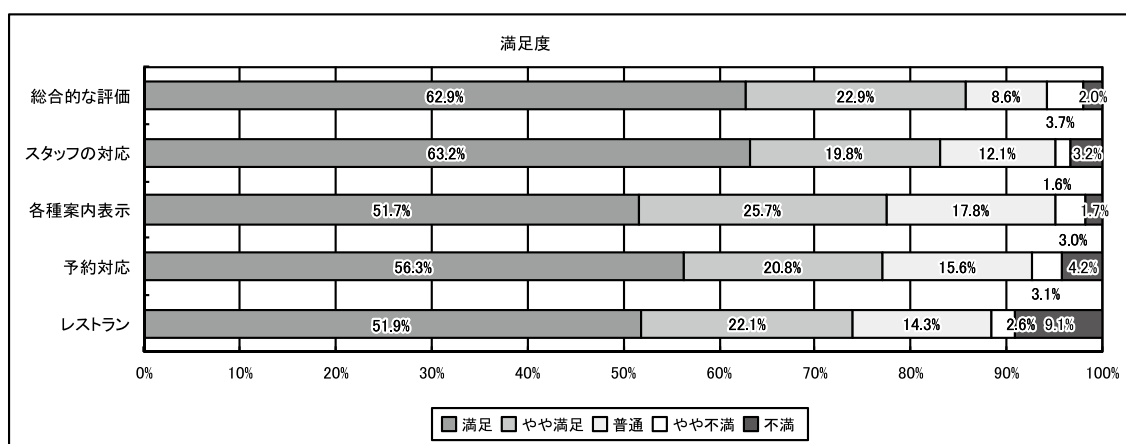
「その他」回答（主なもの）

- ・ 研究授業の整理のため
- ・ 雑誌のコラムで記事を書きたい
- ・ 大学院の研究
- ・ 職業的に必要な知識を得るために、また子どもたちに勉強になればと思って
- ・ 行ったほうがよいといわれたから
- ・ 研修（防災）として
- ・ 転居してきて知りたかった
- ・ 夏休みの自由研究
- ・ 社会見学
- ・ 震災から18年がすぎても忘れないため
- ・ 行く機会があったので
- ・ 震災を全く知らない我が子へ教えたくて
- ・ 小・中学生は無料だから
- ・ こんなこともあったなど、また東日本の支援に関係したいから

(3) 満足度 (1つ選択)

	有効標本数	満足している	やや満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	無回答	今回平均	前回平均	前々回平均
総合評価	245	154	56	21	9	5	103	4.41	4.36	
	100.0	62.9	22.9	8.6	3.7	2.0	-			
館内案内スタッフ	247	156	49	30	4	8	101	4.38	4.43	4.31
	100.0	63.2	19.8	12.1	1.6	3.2	-			
各種案内表示	230	119	59	41	7	4	118	4.23	4.24	4.21
	100.0	51.7	25.7	17.8	3.0	1.7	-			
予約対応	96	54	20	15	3	4	252	4.22	4.23	4.07
	100.0	56.3	20.8	15.6	3.1	4.2	-			
レストラン	77	40	17	11	2	7	271	4.05	4.02	3.85
	100.0	51.9	22.1	14.3	2.6	9.1	-			

前回の調査と比較すると、「総合評価」「レストラン」は前回の評価を上回った。

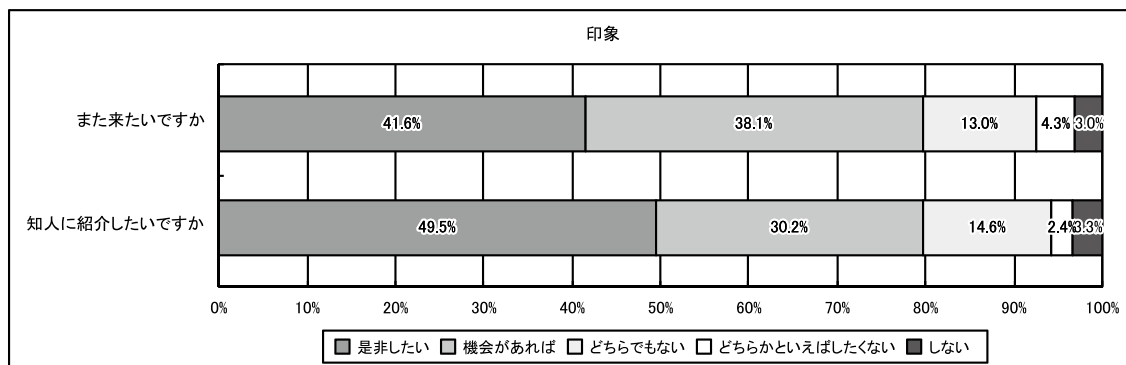


(4) 印象 (1つ選択)

	有効標本数	是非来たい	機会があれば	どちらでもない	どちらかといえばしたくない	しない	無回答	平均	平成24年度
また来たいですか	231	96	88	30	10	7	117	4.11	4.17
	100.0	41.6	38.1	13.0	4.3	3.0	-		
知人に紹介したいですか	212	105	64	31	5	7	136	4.20	4.29
	100.0	49.5	30.2	14.6	2.4	3.3	-		

約8割が、当館への再訪について肯定的な回答をした（「是非来たい」「機会があれば」と回答した）。

また、知人への紹介についても同じく、肯定的な回答が約8割を占めた。



I章 展示

2節 常設展示の概要

1項 西館（旧防災未来館）

エントランス、ロビーのほか、阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝える「震災追体験フロア」（4階）、「震災の記憶フロア」（3階）及び地震災害を中心に防災・減災について学ぶ「防災・減災体験フロア」（2階）を配置している。

【主な経緯】

- 平成14年4月27日一般公開開始
- 平成19年度

開館後の時間経過に伴う復興過程の新たな情報を追記するとともに、来館者に震災の情報等をより分かりやすく伝える観点から、西館全体にわたり展示改修を検討、実施。

- ・平成19年10月30日 資料室を2階から5階に移転
- ・平成20年1月9日 リニューアルオープン

【平成24年度の主な展示改修】

- ①ロビーの吹き抜けに設置している「津波高懸垂幕」について、内閣府による南海トラフ巨大地震に係る新たな津波想定を踏まえ、解説パネルを設置（1階）。
- ②「被災の状況」について、プロジェクター映像を大型液晶パネルへ変更して移設（3階）。
- ③「震災学習テーブル」上に設置している「震災からの復興をたどる」めぐりパネルをタッチパネル方式で電子ブック化（3階）。
- ④聴覚障害者のため、語り部コーナーの語り部映像に字幕付与。また「震災体験を語り継ぐ 阪神・淡路大震災～ろうあ者の1.17～」(DVD)のモニターを設置（3階）。
- ⑤「被災したわがまちの光景～記録写真でたどる阪神・淡路大震災～」として資料室収蔵の被災写真（約100枚）を閲覧できるよう大型液晶パネルを設置（3階）。
- ⑥兵庫県教育委員会が作成した防災教育副読本「明日に生きる」をタッチパネル方式で電子ブック化して2基設置。小学校低学年用、小学校高学年用、中学校用及び高等学校用の4種類を選択、閲覧できるようにした（2階）。
- ⑦展示フロアの照明をLED化（2・3・4階）。

1 エントランス：1階

(1) センター紹介ガイダンス（平成19年度リニューアル）

来館者が効果的に学べるように、センターの設立趣旨や展示のねらいについて、ビデオ映像で事前ガイダンスを実施している。

(2) 東海・東南海・南海地震による津波の記録

来館者が、東南海・南海地震による津波の被害について、より実感をもって理解し、また、災害に対する備えへの意識を高めることができるように、これまでの南海地震、東南海地震による津波の記録と、今後発生した場合に想定される最大の津波高について、懸垂幕に表示して展示している（平成21年4月28日設置）。

平成24年度には、内閣府による南海トラフ巨大地震に係る新たな津波想定を踏まえ、解説パネルを追加設置した。



2 震災追体験フロア：4階

(1) 震災以前のまち（1.17シアター前室）（平成19年度リニューアル）

震災以前の神戸のまち並みの切り絵を展示し、照明と音響の演出により来館者を震災前夜にタイムスリップさせ、次の1.17シアターから始まる震災追体験に効果的につなげる空間を創出している。



(2) 1.17シアター（「5：46の衝撃」）

平成7年（1995年）1月17日午前5時46分、マグニチュード7.3の兵庫県南部地震が発生した。その瞬間、阪神・淡路の各地域で何が起こったのかを、特殊撮影やコンピューターグラフィックの映像により、崩壊していくビル、家屋、高速道路、鉄道などの様子を再現している。また、破壊され燃え上がる街の様子を、不定形多面体スクリーンの映像や立体音響システムなどにより、臨場感高く表現している。



①映像モチーフ

高度に機能集積した近代都市の脆弱性を明らかにするため、都市基盤崩壊の様相を特徴的に示すモチーフを、映像イメージ、阪神・淡路地区の都市構造・建築・土木構造の分析、被害の概要の視点から選定している。

被害分類	映像構成モチーフ	映像イメージ
住宅地	淡路島北淡町住宅群	激しく揺れる木造の住宅群が将棋倒しになる情景 タンスが倒れ天井が崩落する住宅の中を住民の視点で見たカット
商店街	神戸市内商店街	崩れる看板、倒れる自動販売機、 瓦礫と化す商店、商品が崩れ乱れ飛ぶ商店内のカット
都市部	神戸市内高層ビル 神戸市内病院 明石市立天文科学館 港湾の被害	大きく揺れるビル街、オフィスの窓ガラスが飛び散り壁面に走るクラック、飛び散る壁、舞い上がる粉じん、中層階の崩壊する病院、5:46を指したまま止まる時計
交通機関	私鉄電車	金属のきしみとともに正面の波打つ線路 脱線転覆する電車、崩れる高架
	私鉄駅舎	電車が駅舎にめり込み重い衝撃が広がり陥没崩壊する駅舎
	阪神高速道路3号神戸線	うねり始める道路、車がハンドルを取られて蛇行する様子を車を運転する人の視点で見たカット 橋柱に亀裂、折れる橋柱、横倒しになる高速道路
地震火災	神戸市内住宅街	火災発生状況

② 収容人員 約150人

③ 上映時間 約7分

(3) 震災直後のまち

強烈な地震動により破壊された極限状態のまちをジオラマ模型で再現し、破壊状況に茫然自失となった被災者と同じ状況を体感する。



区 分	イメージ
壊れた医院	建物が傾き今にも倒壊しそうな医院。天井から落下しそうなベッド。天井の床が抜け落ち壁が崩壊
階下が押し潰された鉄筋コンクリートのマンション	夫婦の布団、ベビーベッド、倒れた家具。散乱する台所用品、潰れた階層では家具調度品が押し潰されている
壊れた木造家屋	1階部分が押し潰されて下敷きになった車と2階和室に散乱する家具、生活用品
焼け落ちた市場のアーケード	焼け焦げたアーケードの向こうには、焼け落ちた波トタンや鉄骨、木材等の瓦礫。さらには、その奥に焦土と化した街の遠景写真が広がる
垂れ下がる線路	倒れこむ高架橋、その上には不安定にねじ曲がった線路が宙に浮いている

(4) 大震災ホール（「このまちと生きる」・平成19年度リニューアル）

地震発生から復旧・復興していくまちの人々の姿の報道実写資料を編集した映像に合わせて、多くの被災者が感じたであろう気持ちや、復興過程の光と影の両面からの事実、教訓について、1人の女性がモノローグにより被災地からのメッセージとして語っていく。



①収容人員 150人（椅子席）

②上映時間 約15分

③字幕表示

聴覚障害者のためにスクリーン下部に、映像に合わせてナレーションなどを字幕表示している。

④発光ダイオード（LED）字幕表示システム

スクリーン右横に取り付けた表示板の電光文字により、映像内容についての事前説明を表示している。

このシステムは、ライオンズクラブ国際協会335複合地区及び特定非営利活動法人デフピープルから、人と防災未来センターに寄贈いただいたものである。（平成18年1月16日設置）

⑤その他 同時通訳器110台（英語・中国語・韓国語）



3 震災の記憶フロア：3階

(1) 被災の状況（平成19年度リニューアル）

市町ごとの被災の詳細について、被災地の実写映像と地図を重ね合わせ、震度分布や火災等の被災状況の広がりを視覚

的に伝えている。

平成24年度には、プロジェクター方式から液晶パネルに変更するとともに、観覧者の動線を考慮して場所を移し、天井から吊り下げた。

(2) まちの変化 (定点観測)

同じ場所の被災時と現在を映像で対比し、復興の姿を伝えている。

〈定点観測地点〉

- ア 神戸市・三宮 イ 六甲道 ウ 神戸港 エ 大正筋商店街
 オ 西宮市・仁川百合野町 カ 明石海峡大橋 キ 生田神社 ク 阪神高速道路

(3) 震災オリエンテーション

①復興への道 (平成19年度リニューアル)

震災直後から現在までの復興過程を5つのシーンにわけ、それぞれの時期における人の暮らしとまちなみの象徴的なシーンをジオラマで表現するとともに、体験談映像と運営ボランティアによる解説を加え、復興の全体像をわかりやすく伝えている。



〈5つのシーン〉

時期	テーマ	まちなみのジオラマ	人の暮らしのジオラマ
震災直後	つぶれた家の中から見た被災地「生と死のあいだで」	破壊したまち	倒壊した家屋
2週間後	緊急避難と今後の不安「避難所のつらさとあたたかさ」	ブルーシートのまち	避難所での共同生活
3～6か月後	再建への第一歩「それぞれの再建への動き」	復旧を急ぐまち	仮設住宅の新たな生活
1～3年後	復旧と再建の狭間で「まちづくりの理想と現実」	再建が進むまち	それぞれの住宅再建
10年以降	継承することの意味、難しさ「活動し続ける被災地」	復興したまち	ふれあいのある暮らし

②震災の復興過程における課題・震災復興年表 (平成19年度リニューアル)

復興過程の主な課題をフェーズ・分野ごとに整理した震災の復興過程における課題と震災復興年表を展示している。

(4) 震災からの復興をたどる「震災学習テーブル」

震災直後からの復興過程における事象や震災の教訓等について、4つのテーマからなる震災学習テーブルに、各テーマに係る映像、実物資料、グラフィック等を展示している。

平成24年度には被災写真やデータ等のめくりパネルをタッチパネル方式で電子ブック化した。

(4か国語対応)



<4つのテーマ>

①生と死のあいだで

いのちを守る、生と死の岐路、生きていくために、広がる不安、二次災害

②復旧の苦しみ

避難所の暮らし、復旧への道、仮設住宅、助け合い・ボランティア

③まちとこころの復興

生活・福祉復興、産業復興、住宅復興、文化復興

④震災から生まれたもの

提言、災害に備える、ボランティア・NPO、伝えたいこと、震災を忘れない

(5) 震災の記憶をのこす「記憶の壁」

市民の協力により収集された震災関連資料を資料提供者の体験談とともに展示している。展示資料は、実物（立体物）、写真、手記等であり、紙資料を被災環境の変化にそって壁部分に展示、また、実物資料を壁前面に展示している。

(写真：約 500 点、手記：約 260 点、実物資料：約 70 点)

また、各壁面にそのテーマを端的に表す資料をピックアップした「スポット展示」を設置している。

①被災：鷹取商店街の看板

②避難・復旧：ふれあいセンターのベンチと鯉のぼり

③復興・語り継ぐ：子供たちの震災新聞

(6) 文字音声ガイド携帯端末「ハンディガイド」(平成 19 年度リニューアル)

「記憶の壁」の展示物にまつわる体験談を音声と文字で確認できる携帯端末を貸し出している。(4か国語対応)

(7) 震災・復興メッセージ(平成 19 年度リニューアル)

ハンディガイドに収録している体験談をパソコン画面で、座ってゆったりと閲覧、検索することができる。

(8) 語り部コーナー

語り部が自らの震災体験を生で語るほか、震災に関わった人々(被災者、医療関係者、消防団員、県警機動隊員等 25 名、ユース震災語り部 27 名)がビデオで体験を伝えている。

平成 24 年度には、聴覚障害者のため、語り部映像に字幕を付与するとともに、「震災体験を語り継ぐ 阪神・淡路大震災～ろうあ者の 1.17～」(DVD)のモニターを設置した。

また、来館者が見学後の感想等を残すことができるメッセージボードを設置している。



(9) 被災したわがまちの光景～記録写真でたどる阪神・淡路大震災～

資料室収蔵の被災写真(約 100 枚)を天井から吊り下げた大型液晶パネルで閲覧できるようにしている(平成 24 年度設置)。



4 防災・減災体験フロア：2階

(1) 災害の衝撃（ディザスターインパクト）（平成19年度リニューアル）

噴火、竜巻、ハリケーン、地震、津波の自然災害を実写映像により見せることで、自然災害への脅威を訴え、自然災害への関心を高めるための2階展示の導入部として設置している。



(2) 災害情報ステーション

① ニュースボード（デジタル電子新聞）

被災地から芽生えた活動が、国内外の災害支援等広がっていることを事例等により紹介している。

ア 被災地からの発信

イ 各種防災機関ニュース

ウ 災害調査レポート

② 未来へ向けた取り組み

震災を契機とした国内の災害に対する備えや動きをパネルで紹介している。



(3) 災害検索テーブル「地域の危険度情報」

日本国内の災害危険度について、各防災機関のハザードマップのパソコン検索により、自分の地域の危険度や世界の巨大自然災害の発生状況を確認することができる。

(4) ハザードマップ（タッチパネル方式）

来館者自らが触って、確認できるタッチパネル方式によるハザードマップを配置している。

名 称	内 容
津波浸水ハザードマップ	地図と航空写真を活用した、衛星写真と組み合わせたタッチパネル方式の5府県（兵庫県、大阪府、和歌山県、高知県、徳島県）の津波浸水予測図
東日本大震災の津波浸水域表示マップ	東日本大震災による岩手県、宮城県、福島県の津波浸水域を表示したマップ
河川洪水ハザードマップおよび神戸市地震津波減災マップ	コンピューターグラフィックを活用し、高精細3Dデジタル地図、衛星写真などを組み合わせたタッチパネル方式の県内主要6河川の洪水ハザードマップと、神戸市中央区と兵庫区の地震津波減災マップ（株式会社神戸製鋼所寄贈）



津波浸水ハザードマップ



東日本大震災の津波浸水域表示マップ



河川洪水ハザードマップおよび神戸市地震津波減災マップ

(5) 防災教育副読本「明日に生きる」

兵庫県教育委員会が作成した防災教育副読本「明日に生きる」の電子ブック（タッチパネル方式）を2基設置している。小学校低学年用、小学校高学年用、中学校用及び高等学校用の4種類を選択、閲覧できる（平成24年度設置）。



(6) 防災・減災ワークショップ

①防災・減災を学ぶ（平成19年度リニューアル）

災害・防災に関する知識を小学生などにもわかり易く、実験やゲームで体験しながら学ぶことができる防災ワゴンや体験キット等がある。



<防災ワゴン>

名 称	内 容
自主防災を考える	防災カードで持ち出しリュックを作る
家庭防災を知る	部屋の模型にミニチュア家具を配置し、振動を与える
まちの防災を考える	仮想のまちイラストカードでハザードマップを作る
避難所を考える	小学校を避難所として完成させるパズル
震度の単位を知る	キャラクター人形により、地震のエネルギーの大きさを対比
震度を知る	震度別被害イラストカードによる震度階級カルタ
活断層を知る	活断層ジグソーパズル
活断層を調べる	反射実験鏡を使い、航空写真から活断層を確認する

<体験キット>

名 称	内 容
防災勝ち抜きゲーム	自然災害に対して自分たちが生き延びることを考えるゲーム
防災すごろく	防災・減災について学ぶすごろく
サバイバル・ファミリー	都市型災害にあった時、家族がどう対応するかを考えるゲーム
神経衰弱ー非常持ち出し品合わせ	家庭の非常持ち出し品を考える神経衰弱ゲーム
防災カルタ	防災・減災の知識を学ぶいろはカルタ
紙芝居	防災・減災紙芝居『奈々ちゃんのひみつ』
防災グッズ体験	実際の防災グッズを自分で使ったり組み立てたりして体験

<マグニチュードと地震のエネルギー>

地震のエネルギーは、マグニチュードが1増えると約32倍、マグニチュードが2増えると1,000倍になることを球状の模型の大きさで説明している。

②最前線 防災ノウハウとグッズ

各家庭において、いざという時に備える「非常持ち出し品」や「防災グッズ」を紹介している。

③実験ステージ

実験ステージでは、運営ボランティアによる「耐震構造」、「液状化現象」、「家具転倒防止」、「木造耐震木組」の装置を使った実演や映像を活用し、防災・減災に役立つ解説を行っている。



- (7) 防災未来ギャラリー（平成 19 年度リニューアル）
最新の防災トピックスなどを紹介する企画展を開催している。



5 大型実物資料展示：西館南側（平成 19 年度リニューアル）

阪神高速道路の損傷橋脚の基部

震災メモリアルとして阪神高速道路神戸線の壊れた橋脚の基部を阪神高速道路株式会社から譲り受け、西館南側に設置し、折れ曲がった内部の鉄筋を見せることで地震の破壊力の凄さを訴えている。

2項 東館（旧ひと未来館）

3D映像を上映する「こころのシアター」（1階）のほか、地球温暖化等の環境変化に対応して、風水害に係る減災への取り組みについて考える「水と減災について学ぶフロア」（3階）を配置している。

なお、東日本大震災発生後は、特別展示として、同震災の関連展示（映像）も行っている。

【主な経緯】

○平成 15 年 4 月 26 日一般公開開始

○平成 21 年度

東館（旧ひと未来館）は、開館以降、癒しやコミュニケーションの空間を中心に、震災の教訓として「いのちの尊さ」、「共に生きることの大切さ」を伝えてきたが、近年、体験型の環境学習機会や学習施設が充実されてきたことに加え、世界的に多発する大規模自然災害への対応が求められていること等から、防災展示を充実させる方向で展示改修を検討、実施。

- ・平成 21 年 4 月 1 日 ひと未来館としての展示運営を休止
- ・平成 22 年 1 月 8 日 再オープン
 - ①新たに風水害を中心とした防災展示（映像）を整備
 - ②1階の「こころのシアター」は継続
 - ③3階に「グローバル・トレーニング・サイト」（無料の会議・研修等多目的スペース）を整備
 - ④防災未来館を「西館」、ひと未来館を「東館」と館の名称を変更

【平成 24 年度の主な展示改修】

- ①「こころのシアター」において、平成 23 年 7 月より上映している東日本大震災被災地の 3Dドキュメンタリー映像「東日本大震災 津波の傷跡」に、震災から半年後及び 1 年後の映像を加え再編集して上映（「葉っぱのフレディ」と併用）。
- ②こころのシアターの 3D映写機器を更新。

1 こころのシアター：1階

3D映像「葉っぱのフレディ」と「東日本大震災 津波の傷跡」を併用して上映している。
収容人員 150人（椅子席）

(1) 葉っぱのフレディ

世界的なベストセラー、レオ・ブースカーリア原作の「葉っぱのフレディ」をベースにした「いのちの旅」。大型立体ハイビジョン映像と風や振動、耳元でささやくような音響などが一体となった臨場感溢れるシアター。

一本のユリノキに生まれた葉っぱのフレディが、移り変わる四季の中で仲間達と様々な経験をし、「いのち」について物思う姿が、震災から再生した神戸の街の姿を交えて描かれる。いのちを慈（いつく）しむ心や生きる勇気を感じることができる。

①声の出演 齊藤由貴、小林薫

②上映時間 約13分

③発光ダイオード（LED）字幕表示システム

聴覚障害者のためにスクリーンの下に取り付けたもので、LED（発光ダイオード）の電光文字で、映像に合わせて登場人物のせりふなどを一度に最大16文字表示することができる。

このシステムは、ライオンズクラブ国際協会335複合地区及び特定非営利活動法人デフピープルから、人と防災未来センターに寄贈いただいたものである。（平成18年1月16日設置）

④その他 同時通訳器50台（英語・中国語・韓国語）

(2) 東日本大震災 津波の傷跡

東日本大震災発生から約1ヵ月後、津波で被災した東北地方の太平洋沿岸各地を訪れ、ハイビジョン3Dで収録した記録映像を編集したドキュメンタリー作品。津波被災地のありのままの姿を伝える。

平成24年5月より、震災から1ヵ月後の映像に、半年後及び1年後に収録した映像を加えて再編集した作品（震災1年の記録）を上映している。

①制作 NHKメディアテクノロジー

②監督 智片通博

③ナレーション <追加> 山川 健夫 <当初> 湯浅真由美

④撮影地 岩手県 宮古市田老地区、陸前高田市
宮城県 気仙沼市、南三陸町、石巻市（市立大川小学校）、
東松山市、仙台市若林区ほか

⑤撮影期間 <当初> 平成23年4月7日～13日
<追加> 平成23年8月、9月及び平成24年3月

⑥上映時間 約16分

2 水と減災について学ぶフロア：3階

(1) いのちの星の奇跡

真白い森の白フクロウが、さまざまな動物や植物を育む奇跡の星、宇宙に浮かぶ水の惑星—地球—について語る。水から生まれる命の躍動的な姿を、手影絵を通して表現している。

- ・宇宙に浮かぶ水の惑星
- ・影絵による水と動植物、人間のつながり
- ・水の恵みと風水害の脅威

- ①手影絵 劇団かかし座
②ナレーション 池田昌子

(2) 水辺のギャラリー

水の恵みを受けている人々の暮らしを、風景写真（12点）で映し出している。

- ・ガンジス川（インド）
- ・水の都ベネチア（イタリア）
- ・桂林（中国）
- ・棚田（マレーシア）
- ・イエローストーンの間欠泉（アメリカ）
- ・イグアスの滝（ブラジル・アルゼンチン）
- ・ガンジス川の沐浴場（インド）
- ・ベネチアのゴンドラ（イタリア）
- ・水上マーケット（タイ）
- ・田植え（マレーシア）
- ・魚釣り（北米）
- ・川遊び（兵庫県）

(3) 水の星の賛歌

自然の水環境の中での、豊かな水と自然の恵みに支えられた私たちの豊かな暮らし、それは、風水害に遭遇する危険性、災害の脅威と隣り合わせであることを忘れてはならない。水がもたらす恵みと災いについて、大型映像とナレーションを使い伝えることにより、川の近くに住むことが潜在的にもっている風水害の危険性に警鐘を鳴らす展示となっている。

- ・降雨→森の保水→川の形成等、水循環の流れ
- ・水の恵みに支えられた流域での生活風景
- ・風水害の発生

- ① 2009年九州集中豪雨 ② 2004年台風23号円山川 ③ 2009年佐用町水害
〔映像内容〕

2009. 7.24 福岡市

（雨の降る中買い物袋をもつ人→地面をたたきつける雨→屋根をたたきつける雨）

2005. 9. 6 博多（台風14号）（水路からあふれる水）

2009. 7.25 広島県呉市（荒れる川）

2008. 7 金沢市（流れるゴミ箱→暗渠に詰まる木々）

2004.10.21 出石川（台風23号）（ヘリコプターからの空撮）

- 2006.11. 6 宮崎市・東郷町 (台風 14 号)
(水に吞まれひっくり返った倉庫→水没したゴミ収集車)
- 2004.10.21 豊岡市 (台風 23 号) (水に沈む街、車)
- 2009. 8.10 岡山県美作市 (台風 9 号) (土砂に埋もれた家と車)
- 2005. 9. 6 鹿児島市 (台風 14 号) (倒れた大木と信号機)

(4) 水の星の賛歌から風水害の脅威への通路部分

風水害の被害写真の展示

- ・ベトナムの水没した街
- ・オーストリアの水害にあった山岳地帯
- ・アメリカの竜巻の様子
- ・アメリカの竜巻に破壊された住宅
- ・ハリケーンカトリーナの NASA 衛星写真

(5) 風水害の脅威

上下二段の 150 インチの大型スクリーンで、国内外で発生した台風、ハリケーン、洪水等の実写映像を映し出し、風水害の脅威を体感できる。

[映像内容]

- ・阪神大水害 (1938 年・昭和 13 年)
新神戸～加納町、元町、二宮など、神戸周辺 (フィルム提供：浅田さん)
- ・2006 年福岡台風 14 号 (家を流そうとする濁流→流れてきた岩石など→濁流を命綱頼りに渡る→暴風にけむる街→街を襲う強風→救急車とサイレンの音→地下街に流れ込む濁流)
- ・2004 年イギリスコーンウォール州ボスキャッスル (BBC) (濁流に流される車の群れ)
→アメリカ (BBC) (流される牧場のサイロ→流され崩れる白い家)
- ・2006 年福岡台風 14 号 (濁流、道をふさぐ)

(幕間の映像)

伊勢湾台風→ハリケーンカトリーナ→佐用町水害
(風水害の被害写真)

- ・ハリケーンカトリーナ (米国) (2 枚)
- ・集中豪雨による土石流 (イタリア)
- ・サイクロン・アイラ (バングラデシュ) (2 枚)
- ・モンスーンによる洪水 (ベトナム)

(6) 市民ギャラリー

風水害の脅威に立ち向かう、市民や国内外の防災機関、兵庫県等の防災対策の取り組みを吊りパネルで紹介している。

- ・DRA 国際防災機関の風水害被災地における支援活動
- ・人と自然が仲良く共生できる川づくりの取り組みなど
- ・マラウィ共和国での堤防強化 (ISDR)
- ・リベリア共和国での排水設備修復 (ISDR)
- ・バングラサイクロンシェルター (UNCRD)

- ・コストリカフルタイヤで堤防 (ADRC)
- ・アジアコーカサス研修 (ADRC)
- ・土盛り上の住宅、トイレ (EDM)
- ・計画的・重点的な治水対策 (兵庫県)
- ・風水害 雨量・水位情報 (兵庫県)
- ・防災情報・危機情報の提供 (兵庫県)
- ・佐用町台風9号の復旧状況 (兵庫県)
- ・六甲砂防事務所 六甲グリーンベルト事業 (国土交通省)
- ・兵庫県義援金プロジェクト (兵庫県)
 - ①インドネシア スマトラ沖大地震・津波 (2004年12月)
 - ②米国 ハリケーンカトリーナ (2005年8月)
 - ③インドネシア ジャワ島中部地震 (2006年5月)
 - ④ミャンマー サイクロンナルギス (2008年5月)
 - ⑤中国 四川省大地震 (2008年5月)

(7) あしたへ向かって

- ・防災・減災への取り組みについて考え、語り合う交流サロン
- ・展示内容を振り返り、自らが防災・減災対策に取り組むための必要な情報を得たり、きっかけを見つけるコーナー
- ・小・中・高校、大学生による取り組み事例 (ぼうさい甲子園の表彰事例) 紹介 (平成23年9月から東館2階へ移動)
- ・ひょうご防災新聞シリーズ (神戸新聞連載 (月2回) 記事をめぐりパネル化)
- ・最近のトピックスコーナー (新聞記事など最近の話題の提供)
- ・防災学習パソコン5台 (防災専門機関HP等の学習ページに直接リンクしている)
 - ①自然災害について学ぼう (防災科学技術研究所)
 - ②防災危機管理eカレッジ (消防庁)
 - ③朝日防災学検定 (朝日新聞社)
 - ④兵庫県 地域の風水害対策情報 (兵庫県庁)
 - ⑤震度6強体験シミュレーション (内閣府)
 - ⑥NHK東日本大震災アーカイブス (NHK)
 - ⑦「クロスロード」ゲームで学ぶ防災・減災
 - ⑧CG「今、淀川が決壊したら」(国土交通省)
- ・特別展示「東日本大震災とこれからの防災・減災」
東日本大震災の被害状況、復旧状況等について紹介
- ・資料室からのお知らせコーナー
- ・BGM 「しあわせ運べるように」(日本語版、中国語版)
- ・エピソード 壁画「宇宙から見た地球」

(8) 多目的スペース

研修、ワークショップ、企画展等で、随時活用している。

I章 展示

3節 企画展の概要

1項 平成24年度に開催した企画展等（展示、イベント、出展）一覧

	開催期間	名 称	参加人数
1	5月 3日 (木)	ジャンボひまわりの苗プレゼント&育て方講習会	50
2	5月 5日 (土)	COMIN' KOBE12 ブース出展	30,000
3	5月 8日 (火)～ 5月27日 (日)	東日本大震災・宮城県石巻市 高校生からの感謝のメッセージ ありがとうの写真展	9,090
4	6月 7日 (木)、 6月 8日 (金)	第6回地域防災防犯展 ブース出展	7,059
5	6月12日 (火)～ 6月24日 (日)	六甲山の災害展ー減災！六甲山2012。治山を学び、土砂災害に備えよう！	3,735
6	6月12日 (火)～ 9月 2日 (日)	竜巻 日本でも起こる驚異に備えよう！	東日本現地 レポートに含む
7	7月 3日 (火)、 7月 4日 (水)	世界防災閣僚会議 in 東北 サイドイベント ブース出展	1,400
8	7月21日 (土)～ 9月 2日 (日)	夏休み防災未来学校2012 ーげんさいを遊んで学ぼう！ 夏休みー	10,549
(1)	7月21日 (土)～ 9月 2日 (日)	ひとぼう体験ポイントカード（来館者ポイントサービスの実施）	
(2)	7月21日 (土)～ 9月 2日 (日)	げんさいファクトリー (A) 共振模型「ゆらゆら三兄弟」をつくろう！ (B) ロープワークで「本結びミサンガ」をつくろう！	
(3)	7月21日 (土)～ 9月 2日 (日)	毎日！フリープログラム「ストロー建築」「おりがみ・プレート」	
(4)	7月21日 (土)、 7月28日 (土)	津波のサイエンス・ワークショップ	
(5)	7月20日 (金)、 7月22日 (日)、 7月28日 (日)、 8月 5日 (日)、 8月 9日 (木)、 8月11日 (土)、 8月12日 (日)	〇〇を探し出そう！まっくらテント体験	
(6)	8月 4日 (土)	ペットボトル地震計をつくろう！	ー
(7)	8月 5日 (日)、 8月11日 (土)、 8月12日 (日)	もしものときの備えを携帯！ハンカチ・ポーチをつくろう！	
(8)	8月 9日 (木)、 8月10日 (金)	地震体験車で地震の揺れを体験しよう！	
(9)	8月19日 (日)	ぼうさい・げんさいゲームで遊ぼう！	
(10)	8月19日 (日)、 8月26日 (日)	関西大学KUMC「Mission in Bosai！」	
(11)	8月25日 (土)	摂南大学「防災ヴィレッジ」ストローで遊ぼう！	
(12)	8月25日 (土)	変身ダンボール・1つの箱から机をつくろう！	
(13)	8月26日 (日)	はじめての絵手紙教室～神戸から心届けよう～	
(14)	9月 1日 (土)、 9月 2日 (日)	子ども減災講談 稲むらの火・つなみてんでんこ	
(15)	9月 1日 (土)	減災クッキング教室	
(16)	9月 2日 (日)	減災女子力UP講座 part 2 みんなリラックス！つぼ押しハンド・ケアを身につけよう。	

	開催期間	名 称	参加人数
9	7月22日(日)、12月16日(日)、 3月31日(日)	おはなしひろば	62
10	8月18日(土)	HAT神戸 げんさい探検隊 第1回 「DIG in HAT 神戸」	18
11	8月25日(土)、8月26日(日)	NHK防災パーク2012 ブース出展、プログラム提供	10,100
12	9月4日(火)～9月30日(日)	JAMSTECが進める防災研究最前線!	7,768
13	9月22日(土)	ひとぼうユース・ミーティング2012「東日本の復旧・復興のシーンを見つめつつ、関西の私たちが今考えること」	53
14	10月2日(火)～12月16日(日)	想定 南海トラフ巨大地震	93,506
15	10月16日(火)～11月4日(日)	ジャンボひまわりコンテスト&東北のひまわり物語 展示発表	1,100
16	10月24日(水)、10月25日(木)、 10月26日(金)	緑十字展2012 in TOYAMA ブース出展	8,214
17	10月28日(日)	近畿府県合同防災訓練 ブース出展	5,000
18	11月3日(土)	津波の実験サイエンス・ワークショップのデリバリー実施	56
19	11月10日(土)、11月11日(日)	中播磨ふれあいフェスティバル ブース出展	113,000
20	11月20日(火)～12月9日(日)	新潟発!防災セレクション展示会 in 神戸	5,400
21	11月23日(金)、11月24日(土)、 11月25日(日)	神戸マラソン2012 EXPO「感謝と友情」主催者ブース 協力出展	38,000
22	12月11日(火)～1月27日(日)	震災からよみがえった東北の文化財展	31,240
23	1月8日(火)～1月27日(日)	こころを伝える絵手紙展	1,885
24	1月16日(水)～3月17日(日)	防災力強化県民運動ポスターコンクール入賞作品展	3,654
25	1月17日(木)	ひょうご安全の日のつどい ブース出展「減災デザイン・ヴィレッジ」	3,500
26	1月17日(木)	詩の朗読と音楽の夕べ2013	91
27	1月20日(日)	第2回げんさい探検隊・シンサイミライ学校「こどもBOSAIカフェ」	110
28	1月20日(日)	ビッグバン「防災ってなんだろう?」減災ファクトリー体験プログラムのデリバリー実施	42
29	1月27日(日)	HAT神戸連携防災イベント イザ!カエル大キャラバン! 2013	1,116
30	1月29日(火)～2月17日(日)	減災グッズ展2013「0次の備え」携帯し持ち歩く減災用品	3,451
31	2月7日(木)、2月8日(金)	第17回震災対策技術展 ブース出展	15,045
32	2月19日(火)～3月10日(日)	東北の大津波 空から見た被災地写真展	3,860
33	3月10日(日)	癒しと祈りの名曲コンサート～神戸から東北へ～	212
34	3月12日(火)～3月24日(日)	NHK防災教育セミナー「情報メディアを活かす、わたしたちの暮らしと防災・減災」関連企画展	1,380
35	3月12日(火)～3月31日(日)	減災デザイン・プランニングコンペ成果展示	940
36	3月26日(火)～	東日本大震災から2年 復旧・復興の現在～阪神・淡路の地から、私たちにできること	2,535

2項 企画展の概要

1 ジャンボひまわりの苗プレゼント&育て方講習（5月3日）

被災当時、瓦礫の街に咲き、心のささえとなったひまわり。その原点を見つめ続ける企画として、例年 NPO 法人ひまわりの夢企画と共同で「ジャンボひまわりコンテスト & わたしのひまわりものがたり」を行っており、今年の募集開始（ひまわりの育成開始）にあたり、ひまわりを大きく育てる方法をレクチャーし、特別大きく育つひまわりの苗をプレゼントする催しを行った。



会場

2 外部イベント「COMIN 'KOBE 12」ブース出展（5月5日）

阪神・淡路大震災を風化させず、若い世代へ震災を考えるきっかけを作るために神戸で開催される音楽イベント。会場内の「震災ヴィレッジ」にて防災グッズ体験コーナーを出展。

3 東日本大震災・宮城県石巻市 高校生からの感謝のメッセージ ありがとうの写真展 （5月8日～5月27日）

東日本大震災被災地より、全国からの支援への感謝の笑顔を届けるため、宮城県立好文館高等学校の生徒達が撮影した被災地の笑顔の写真を展示。

また5月12日には、関連イベントとして、展示写真を撮影した生徒達が語る『石巻の今』をテーマに、現地支援を行った兵庫県立舞子高等学校生や人と防災未来センター研究員等がそれぞれの立場で語り合うフォーラムを開催。

4 第6回地域防災防犯展 ブース出展（6月7日～6月8日）

インテックス大阪にて開催。人と防災未来センター紹介及び来場者を対象に『防災グッズの備え』に関するアンケートを実施。



展示ブース



紅谷研究員セミナー会場

5 六甲山の災害展—減災！六甲山 2012。治山を学び、土砂災害に備えよう！

(6月12日～6月24日)

六甲山系はこれまで度重なる土砂災害が発生してきた。梅雨時期、台風時期を控え、土砂災害に関する知識を身に付けてもらうため開催した。土石流発生の様子を再現したモデル実験や、時間雨量10ミリを目や耳で体感できる降雨体験装置「カップくん」などを展示。



会場



土石流発生実験を観る来館者

6 竜巻 日本でも起こる驚異に備えよう！（6月12日～9月2日）

平成24年5月6日に茨城県つくば市付近において突風が発生し、大きな被害をもたらしたことを受け、被害状況を写真等で展示するとともに竜巻から身を守る方法や行動の準備を紹介。

7 世界防災閣僚会議 in 東北 サイドイベント ブース出展（7月3日～7月4日）

仙台をメイン会場として開催された「世界防災閣僚会議」のサイドイベント会場において、関西広域連合と共同で取り組みをパネル等で紹介。



中川防災担当大臣視察



展示ブース

8 「夏休み防災未来学校2012」（7月21日～9月2日）

(1) ひとぼう体験ポイントカード（7月21日～9月2日）

センターオリジナルの「スタンプカード（ポイントを貯めるカード）」を発行し、夏休み期間中に、センターが提供する各種のプログラム・体験コーナーへの参加に対し、参加者のカードにスタンプを捺印し、参加者は貯まったポイントをポイント数に応じた景品と交換できる。ポイントの発行は9月2日まで、ポイントの交換は9月30日まで実施。

(2) げんさいファクトリー (7月21日～9月2日)

(A) 共振模型「ゆらゆら三兄弟」をつくろう!

建物の高さとゆれ方の関係が学べる、簡単な模型を作る体験プログラム。

(B) ロープワークで「本結びミサンガ」をつくろう!

ロープワークのひとつ「本結び」の結び方を覚えながら、オリジナル・ミサンガを作る体験プログラム。



プログラム参加風景 (A)



プログラム参加風景 (B)

(3) 毎日! フリープログラム「ストロー建築」「おりがみ・プレート」

(7月21日～9月2日)

ストローを使って簡単な耐震補強模型を作る「ストロー建築」と、折り紙やチラシで簡単にお皿を折ることができる「おりがみ・プレート」等自由に参加できる体験コーナー。



「ストロー建築」参加風景



「おりがみ・プレート」参加風景

(4) 津波のサイエンス・ワークショップ (7月21日、7月28日)

津波が普通の波とどう違うのか、その特徴をミニチュア模型を使ってしくみや性質を学ぶワークショップ。センター研究員によるミニレクチャーも同時開催。



実験風景



研究員による解説

(5) ○○を探し出そう！まっくらテント体験

(7月20日、7月22日、7月28日、8月5日、8月9日、8月11日、8月12日)

非常時におとずれるピンチを乗り越えるため、役に立つグッズを暗いテントの中から見つけ出すプログラム。



参加者の様子



説明を受ける参加者

(6) ペットボトル地震計をつくろう！（8月4日）

本物の地震計でしくみを学びながら、夏休みの工作にもなる手作り地震計を作るワークショッププログラム。



会場



地震計工作を行う参加者

(7) もしものときの備えを携帯！ハンカチ・ポーチをつくろう！

(8月5日、8月11日、8月12日)

いざというときに役立つグッズをバッグに入れて、日常にも使えるポーチを作るワークショッププログラム。



会場



ハンカチポーチを作る参加者

(8) 地震体験車で地震の揺れを体験しよう！(8月9日、8月10日)

神戸市民防災総合センターの協力で、地震体験車による大地震の揺れを体験。



会場



大地震の揺れを体験

(9) ぼうさい・げんさいゲームで遊ぼう！(8月19日)

防災・減災について遊びながら学べるいろいろなゲームを体験するプログラム。



会場



参加者の様子

(10) 関西大学KUMC「MISSION in Bosai!」

(8月19日、8月26日)

関西大学のサークルKUMCによる、クイズや工作で遊びながら防災を学ぶプログラム。



会場



参加者の様子

(11) 摂南大学「防災ヴィレッジ」ストローで遊ぼう！（8月25日）

摂南大学理工学部建築学科の学生による、建物の強度を試すストローを使った建築模型作りプログラム。



ストロー工作を行う参加者

(12) 変身ダンボール・1つの箱から机をつくろう！（8月25日）

摂南大学理工学部建築学科の学生による、1つのダンボールを使って小さな勉強机を完成させる工作プログラム。



ダンボール机工作を行う参加者



完成したダンボール机を持って記念撮影

(13) はじめての絵手紙教室～神戸から心届けよう～（8月26日）

たいせつな人へ心を届けるために絵手紙を描くプログラム。



会場



絵手紙を描く参加者

(14) 子ども減災講談、稲むらの火・つなみでんでんこ（9月1日、9月2日）

昔から語り継がれる津波の物語を伝統の話芸「講談」でおくるプログラム。



会場



講談師・太平洋氏

(15) 減災クッキング教室（9月1日）

災害が起こった際にどんな食品を備えておくといいのか、栄養を考えた上で美味しく食べるためのオリジナルレシピによるかんたんクッキングの体験プログラム。



解説風景



参加者の様子

(16) 減災女子力UP講座 part 2 みんなリラックス！つぼ押しハンド・ケアを身につけよう。（9月2日）

つぼを学んで手や腕のケアで体調を整えるすべを学び、いざというときにも少しでも快適に過ごすための手段を身につけるプログラム。



会場



参加者の様子

9 おはなしひろば（7月22日、12月16日、3月31日）

毎年開催している恒例のイベント。絵本の読み聞かせや人形劇を実施。



紙芝居を観る参加者



手遊びを楽しむ参加者

10 HAT神戸 げんさい探検隊 第1回「DIG in HAT神戸」（8月18日）

大地震が起きたときにどんな行動を取るべきか、地図や写真を使って街の成り立ち、避難所や危険な箇所を確認し、マイ・マップづくりを行うワークショップを人と防災未来センターと同じHAT神戸内にあるなぎさ小学校から参加者を募り、地域防災に繋がるプログラムとして実施。



会場



防災マップを作る参加者

11 NHK防災パーク2012 ブース出展（8月25日～8月26日）

NHK放送センター（東京）にて開催。子どもやファミリー向けプログラムとして、夏休み防災未来学校実施のフリープログラム「ストロー建築」「おりがみ・プレート」等を実施。



「おりがみ・プレート」参加者



「クロスワードクイズ」参加者

12 JAMSTECが進める防災研究最前線！（9月4日～9月30日）

独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）が取り組んでいる地震津波・防災研究にかかるパネルや模型を展示。



会場



来館者の様子

13 ひとぼうユース・ミーティング2012「東日本の復旧・復興のシーンを見つめつつ、関西の私たちが今考えること」（9月22日）

東日本大震災以降、災害支援活動に取り組んでいる大学生や若手の社会人等がそれぞれの活動報告を行い、今後の課題や克服策を話し合うイベントを開催。



開会



参加者による活動報告の様子

14 想定 南海トラフ巨大地震（10月2日～12月16日）

8月29日に国から発表された、南海トラフにおいて発生しうる最大クラスの地震・津波を推計し、人的被害等を想定したデータを映像やパネルで紹介。



会場



JAMSTEC 展示

15 ジャンボひまわりコンテスト & 東北のひまわり物語 展示発表

(10月16日～11月4日)

「ジャンボひまわりコンテスト」は、阪神・淡路大震災当時、瓦礫の街に咲き、心のささえとなったひまわりの背丈を競うコンテスト。全国から寄せられた、ひまわりの栽培記録および栽培したひまわりにまつわるエピソードを紹介。また本年度は、東日本大震災被災地に咲いたひまわりの写真展も同時開催。



展示



「東日本大震災被災地に咲いたひまわりの写真展」

16 緑十字展 2012 in TOYAMA ブース出展 (10月24日～10月26日)

富山県富山産業展示館テクノホールにて開催され、パネル展示及び防災グッズの備えに関するアンケートを実施。



会場



来場者の様子

17 近畿府県合同防災訓練 ブース出展 (10月28日)

東海・東南海・南海地震を想定し、近畿ブロックの関係機関が一体となった実動訓練を行う会場で、パネル展示・資料配付を実施。



会場

18 津波の実験サイエンス・ワークショップのデリバリー実施（11月3日）

東京臨海広域防災公園そなエリア東京より依頼を受け、夏休み防災未来学校実施のプログラム「津波の実験サイエンス・ワークショップ」を「ボウサイフェスティバル」会場にて実施。

19 中播磨ふれあいフェスティバル ブース出展（11月10日～11月11日）

姫路市家老屋敷跡公園にて開催され、ひょうご安全の日推進協議会、兵庫県県民住宅再建共催基金と3社合同で出展。



ひょうご防災パビリオンブース



防災楽習迷路

20 新潟発！防災セレクション展示会 in 神戸（11月20日～12月9日）

日頃の備えから避難生活時のケアまで、中越大地震等の経験をもとに新潟県の企業によって開発・製品化された「真に役立つ」防災・救済用品類を展示紹介。12月4日には、関連イベントとして、「新潟発！真に役立つ防災セレクション提案会」を開催し、製品開発企業による防災用品プレゼンテーションを実施。



展示会場



プレゼンテーション会場

21 神戸マラソン2012EXPO「感謝と友情」主催者ブース協力出展

（11月23日～11月25日）

神戸マラソン主催者ブースにて、資料配付及びパネル展示を実施。



会場



メッセージコーナー

22 震災からよみがえった東北の文化財展（12月11日～1月27日）

東日本大震災で被害を受けた複数の博物館・図書館からレスキューされた文化財を現物、パネル、映像等で展示。12月12日、1月17日、1月27日には、遠野市立博物館学芸員による展示解説ツアーを実施。



会場



ツアーガイド風景

23 こころを伝える絵手紙展（1月8日～1月27日）

東日本大震災被災地宛に描かれた絵手紙作品と、そのメッセージを目にした東北の方々からの返信の絵手紙を展示。



会場

24 防災力強化県民運動ポスターコンクール入賞作品展（1月16日～3月17日）

ひょうご安全の日推進県民会議が兵庫県内の小・中学生、高校生を対象に募集した、「防災」をテーマとしたポスター作品を展示。



会場

25 ひょうご安全の日つどい ブース出展「減災デザイン・ヴィレッジ」

1月17日「ひょうご安全の日」にあわせて、HAT神戸なぎさ公園にて開催され、パネルの展示及び防災グッズを紹介。



ブース



防災グッズブース

26 詩の朗読と音楽の夕べ2013（1月17日）

阪神・淡路大震災後、地震等の自然災害にまつわる詩を公募し、その詩を朗読するイベントをこころのシアターで開催。



会場受付

27 第2回げんさい探検隊・シンサイミライ学校「こどもBOSA Iカフェ」(1月20日)

被災時の「食」を学ぶプログラムの一環として、阪神・淡路大震災当時の様子を館内見学で学ぶプログラムを開催。



実物資料展示を観る参加者



防災グッズ展示を観る参加者

28 ビッグバン「防災ってなんだろう？」減災ファクトリー体験プログラムのデリバリー実施（1月20日）

大阪府立大型児童館ビッグバンより依頼を受け、夏休み防災未来学校実施のプログラム「防災グッズ体験」「ロープワークで本結びミサンガをつくろう！」を実施。



「防災グッズ体験」参加者



ロープワークプログラム

29 H A T 神戸連携防災イベント イザ！カエル大キャラバン！2013（1月27日）

例年 J I C A 関西と人と防災未来センターを会場として開催される、広く県民が参加できる防災イベント。夏休み防災未来学校実施のプログラム「〇〇を探し出そう！まっくらテント体験」を実施。



ロビー会場



「まっくらテント」参加者

30 減災グッズ展2013「0次の備え」携帯し持ち歩く減災用品

（1月29日～2月17日）

『携帯し持ち歩く減災用品』をテーマとして、防災・減災用品を開発・販売する企業等から公募した製品を展示紹介。関連イベントとして、出展企業が製品のプレゼンテーションを行うとともに、一般参加者と相互に防災・減災について考える『0次の備えの具体アイテムを考える、プレゼンテーション&ワークショップ』を開催。



展示



プレゼンテーション会場

31 第17回震災対策技術展 ブース出展（2月7日～2月8日）

パシフィコ横浜にて開催され、パネル展示及び防災グッズの備えに関するアンケートを実施。



会場



ブース展示

32 東北の大津波 空から見た被災地写真展（2月19日～3月10日）

東北建設協会が撮影した東日本大震災被災3県の航空写真を被災前・被災後を並べて展示。



会場



観覧者の様子

33 癒しと祈りの名曲コンサート～神戸から東北へ～（3月10日）

東日本大震災から2年を迎えるにあたり、ラジオ関西が所有するアナログ・レコードのコレクションの中から「癒しと祈り」をテーマにした名曲コンサートをこころのシアターで開催。



会場受付



会場

34 NHK防災教育セミナー「情報メディアを活かす、わたしたちの暮らしと防災・減災」
関連企画展（3月12日～24日）

『メディアからの情報入手を通じた減災・防災』をテーマとした3月17日開催のNHK防災教育セミナーにあわせて、災害時の情報や報道に関する機材やパネルを展示紹介。



会場



セミナー風景

35 減災デザインプランニング・コンペ成果展示（3月12日～3月31日）

芸術工学会主催で実施されている、減災をテーマとしたデザインプランの展示紹介。関連イベントとして、3月17日、3月20日に来館者による一般投票を実施。3月24日には、作品の提案者によるプレゼンテーションと審査及び表彰式を開催。



会場

36 東日本大震災から2年 復旧・復興の現在～阪神・淡路の地から、私たちにできること（3月26日～）

東日本大震災の復旧・復興・支援に関わっている阪神・淡路の大学生等若者が、今どのようなことに取り組んでいるのかをパネル等で紹介。関連イベントとして、今これからの課題について考える「ひとぼうユース・ミーティング」を3月23日に開催。



会場



ユース・ミーティング会場

I 章 展示

4 節 運営ボランティアの活動等

人と防災未来センターでは、運営スタッフとして、職員やアテンダントのほか、多数の運営ボランティアが加わっている。

運営ボランティアには、語学、手話、展示解説及び語り部の4種類があり、1人週1～2回、毎日25人程度が活動を行っている。

また、運営ボランティア有志が中心となって「防災未来サークル」が発足し、「防災グッズチェックリスト」の内容の検討や「夏休み防災未来学校」などへ参画している。

1 活動内容

区 分	共通の活動	専門の活動
語 学 (英・中・韓・西)	館内展示に関する来館者への解説、展示体験補助(ワークショップ運営)・誘導 整理、ツアーガイド	外国語(英語・中国語・韓国語・スペイン語)、手話による来館者対応(施設案内・展示解説等)
手 話		来館者対応(施設案内、展示解説等)
展示解説		西館3階又は1階ガイダンスルームにおける来館者への「震災体験の語り」
語 り 部		

2 登録状況

運営ボランティアは1年毎の登録制(更新可)で、平成24年度末の登録者は149人となっている。

区 分	登録者数	性 別		年 代 別							
		男	女	～29	～39	～49	～59	～69	～79	80～	
語 学	英 語	25	17	8	0	0	1	4	4	13	3
	中 国 語	11	3	8	1	1	1	3	2	3	0
	韓 国 語	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	ス ペ イ ン 語	2	1	1	0	0	0	0	1	1	0
手 話	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	
展 示 解 説	63	40	23	0	0	3	2	15	38	5	
語 り 部	45	29	16	0	0	0	1	15	22	7	
合 計	149	90	59	1	1	5	10	40	77	15	

3 語り部による被災体験談

語り部による講話(被災体験談)を実施しており、同館1階ガイダンスルームでの講話実施状況は次のとおりである。

平成24年度は、前年度と比較し、回数は81%、聴講人数は78%となっている。

西館1階ガイダンスルームでの講話実施状況

区分	平成 24 年度		平成 23 年度	
	回数	聴講人数	回数	聴講人数
4月	67	3,895	53	3,329
5月	166	10,639	212	14,283
6月	119	6,491	247	16,846
7月	69	2,829	104	4,930
8月	27	1,062	37	2,142
9月	128	7,298	150	8,658
10月	183	10,443	204	11,610
11月	186	9,542	223	11,213
12月	92	6,024	118	7,154
1月	82	4,847	69	3,436
2月	86	4,581	75	3,562
3月	56	2,679	70	3,070
計	1,261	70,330	1,562	90,233

4 研究員による防災セミナー

小・中学生等を対象に、センター研究員による防災セミナーを実施している。

セミナーに際しては、センター独自のテキストを提供するほか、研究員の最新の研究成果なども、学習内容に盛り込んでいる。

この震災学習テキストは、対象に応じて、小学校低学年用には挿し絵を中心とした「じしんがおきると」、小学校高学年用には平易な表記による「地しんとしん災」、中学生用には「地震と震災」の3種類を作成し、活用している。また、水害の発生要因、種類、防災等について解説した「都市と水害」も活用している。

なお、小・中学生等を対象としたセミナーの実施状況は次のとおりである。

西館1階ガイダンスルームでの防災セミナー実施状況

区分	平成 24 年度		平成 23 年度	
	回数	聴講人数	回数	聴講人数
4月	3	245	4	204
5月	4	238	5	300
6月	1	61	0	0
7月	4	253	4	232
8月	2	42	2	81
9月	4	219	1	81
10月	1	118	3	189
11月	7	554	7	511
12月	2	87	3	183

1月	5	378	9	628
2月	2	142	5	353
3月	1	94	3	317
計	36	2,431	46	3,079

5 記者による講義

小・中学生、高校生を対象に、新聞記者による震災等に関わる自らの取材経験等の講義を実施している。

平成24年度 実施回数： 7回
聴講人数：544人

6 運営ボランティアの研修

運営ボランティアをはじめとするセンタースタッフ等を対象に、防災などの専門知識の向上や自己研さんの機会として、研修セミナーを開催している。

平成24年度研修セミナーの開催状況

回	日時	参加人数	内容	講師
1	H24. 6.24 (日) 9:00～17:30	60人	防災施設見学 和歌山県広川町「稲むらの火の館」	
2	H24. 9.28 (金) 13:30～17:00	66人	第1回防災専門リレー講座 「南海トラフ巨大地震・津波の特徴と被害」	河田恵昭センター長 鈴木進吾リサーチフェロー
3	H24. 10.11 (木) 9:40～16:30	37人	国際減災フォーラム 「減災社会への連携」	マルガレータ・ワルストム (国連事務総長特別代表) 他
4	H24. 11. 2 (金) 13:30～17:00	37人	第2回防災専門リレー講座 「南海トラフ巨大地震・津波をどう評価するか」	今村文彦(東北大学災害科学国際研究所教授) 原田賢治(静岡大学総合防災センター准教授)
5	H24. 11.26 (月) 15:30～17:30	33人	運営ボランティア意見交換会	
6	H24. 12.10 (月) 13:30～17:00	56人	第3回防災専門リレー講座 「長周期地震動による被害と対策」	岡二三生上級研究員 福和伸夫(名古屋大学減災連携研究センター長)
7	H24. 12.10 (月) 9:30～11:00	7人	消防訓練	
8	H25. 1.24 (木) 13:30～17:00	49人	第4回防災専門リレー講座 「地震・津波観測体制と考慮すべき課題」	金田義行(独海洋研究開発機構プロジェクトリーダー) 越村俊一リサーチフェロー
9	H25. 2.13 (水) 13:30～17:00	46人	第5回防災専門リレー講座 「阪神・淡路、東日本の教訓を南海トラフ巨大地震津波対策へ」	室崎益輝(研究機構副理事長) 越山健治リサーチフェロー

I章 展示

5節 VIP等の視察対応

人と防災未来センターには、一般来館者のほか、海外からは中央・地方政府の要人や大学関係者及び国際協力機構（JICA）が招聘した発展途上国の研修生などの視察がある。また、国内からは政府や地方自治体の幹部及び議会議員などの行政視察も多い。これらの団体からは、一般の展示見学に加え、センターの設立趣旨や機能や活動、あるいは阪神・淡路大震災の復興過程について説明を求められる事が多く、これらに対しては、センターの幹部職員、あるいは研究員が対応を行い、そのニーズに応えるよう努めている。

平成24年度にセンターに来訪し、一般見学以外にこのような対応を行った団体は、155団体、1,901人（うち海外56団体、745人）にものぼっている。こうした視察対応は、センター業務のなかでも大きなウェイトを占めているが、これが契機となり、他の団体の来訪、研修への参加、新しい交流のきっかけになるなど、様々な波及効果を生み出している。

平成24年度VIP等の視察対応の実績

区分	団体数	人数	主な団体等
海外の要人等	43	556	・西オーストラリア州ヘイムズ副首相（4/19） ・中華人民共和国 国際貿易交渉代表（8/8） ・ウズベキスタン非常事態大臣（12/14） ・トルコ国防災教育研修（11/1） ・北東アジア地域自治体連合（3/12）等
国際協力機構（JICA）による招聘研修生	13	189	・JICA研修「中国応急対応能力強化」（6/27） ・JICA研修「建築防災」（7/31） ・JICA研修「イラン国別研修」（12/14） ・JICA研修「トルコ国ブルサ県」（3/27）等
国関係	16	122	・中川正春防災担当大臣（5/2） ・下地幹郎防災担当大臣（10/11） ・西村康稔内閣府防災担当副大臣（1/17） ・消防庁審議官（1/17）等
地方自治体	72	657	・東京都議会防災対策特別委員会（5/16） ・福島県南相馬市議会（7/10） ・宮城県議会総務常任企画委員会（8/28） ・岩手県知事（1/27）等
その他	11	377	・NHK神戸放送局新規採用職員（5/9） ・宮城及び兵庫県看護協会（5/26） ・関西大学社会安全体験実習（6/23）等
合計	155	1,901	

※上記のほか、取材等の目的で来館した報道機関の記者、旅行社等に対して、135件の広報・宣伝活動を行った。



中川正春防災担当大臣の視察
(平成 24 年 5 月 2 日)



ウズベキスタン非常事態省大臣の視察
(平成 24 年 12 月 14 日)

Ⅱ章 資料収集・保存

- 1 資料収集と整理
- 2 資料室における相談業務・情報発信
- 3 震災資料の活用
- 4 資料を通じた交流・ネットワーク

II章 資料収集・保存

1 節 資料収集と整理

1 項 一次資料

資料室で保管する資料は、「一次資料」（震災等に直接関連する資料）と「二次資料」（図書・刊行物）に分類される。

1 一次資料の収集

資料室で保存する一次資料は、平成 14 年 4 月のセンター開館以前の事業で収集されてきた約 16 万点の資料と、開館後の調査・収集活動によって集められた約 2 万 5 千点の資料からなる。

(1) 開館前

開館前の事業とは、平成 7 年 10 月から兵庫県からの委託を受けた(財)21 世紀ひょうご創造協会によって開始された収集事業であり、また平成 10 年 4 月以降は(財)阪神・淡路大震災記念協会が、収集事業を継続すると共に、公開基準等を検討してきた。さらに平成 12 年 6 月から約 2 年間にわたり、兵庫県により「緊急地域雇用特別交付金事業」等も活用した大規模な震災資料の調査事業において約 16 万点の資料が収集された（詳細は巻末資料 6-(2) を参考のこと）。

(2) 開館後

平成 24 年度に行った資料収集調査は、新たな所在調査と既存調査を含め計 9 回で、平成 25 年 3 月末現在で、一次資料提供件数は 3,768 件（資料点数約 18 万 5 千点）となった（詳細は巻末資料 6-(4) を参照のこと）。

〈収蔵状況〉

(平成 25 年 3 月末現在)

	映像・音声	紙	モノ	写真※ (アルバム等)	総数
平成 24 年度受け入れ 一次資料点数	103	7,882	1	15	8,001
平成 24 年度 3 月末現在 一次資料点数 (累計)	1,261	177,029	1,422	5,911	185,623

2 一次資料の公開

提供者との協議について、平成 16 年度末段階で、一次資料約 16 万点のうち約 70,000 点、提供先件数にして約 820 件が、公開について別途協議が必要とされていた。平成 17 年度以降、資料提供者と公開に向けての協議を進めたが、平成 19 年度末には協議が必要な残件数は約 270 件（約 55,000 点）となった。しかし、協議を進めていくにつれ、提供者の転居先が不明な場合も増えてきたため、未協議の資料目録の公開を先に進め、利用者からの閲覧希望がある資料を優先的に協議していく方針に変更した。これを受けて、平成 21 年度には今後個別協議が必要な資料、約 48,900 点の資料について目録公開の作業を行った。平成 24 年度には個別協議が必要な資料について、今後も提供者と公開へ向けた協議を続けていくこととした。

2項 震災資料の保存

1 環境調査・管理・保存

(1) 資料保存環境調査の実施

原資料の劣化を防ぎ、収集した時の状態を可能な限り維持・保存していくためには、資料保存に適した環境を整えることが必要である。そのため資料室では、主に資料収蔵スペースにおいて年1回の資料保存環境調査を実施し、調査結果に基づいた資料保存環境の整備を進めている。調査を定期化して今年度で9年目となった。

調査は資料保存環境の変化を調べるために前年度とほぼ同じ箇所（3階展示フロア内の収蔵スペース、5階の作業スペース、7階の2つの収蔵庫）で実施した。その結果、昆虫類および真菌類が捕獲された場所が確認されたので、収蔵庫内に粘着マットを置くなどの対策を継続的に実施している。また、清掃を強化するとともに、専門業者と相談して温湿度コントロールや定期的な殺虫処理などの対策を講じていくことを検討している。

(2) 温度・湿度データ管理の実施

保管状態把握のため、収蔵スペースの温度と湿度を継続的に計測している。昨年度に引き続き、今年度も3階と7階の資料収蔵スペースに温湿度データロガーを配置し、年間を通じた温度と湿度のデータを保存した。年間を通じた計測結果に基づいて、空調設定を変更するなど、3階展示フロアおよび収蔵庫の温度・湿度の安定化を図っている。また、3階展示フロアに収蔵している保存箱内に、湿度を安定させるため、調湿紙を導入している。今年度は、これまで計測してきた温度・湿度データの結果に基づいて、家庭用除湿器を3階展示フロアに3台、7階に2台設置し、夏から秋にかけて稼働させ、湿度の安定化を図った。

2 音声資料の媒体変換の実施

当センターで所蔵している音声・映像資料のほとんどは、作成されてから5年以上が経過しており、音声・映像の劣化が懸念されている。そのため、音声・映像資料のデジタル媒体変換を順次進めている。平成23年度は、音声資料のうち、カセットテープ、コンパクトディスク、ミニディスクに記録された約500点の資料うち、120分カセットテープ100本のデジタル変換を行った。

平成24年度は、VHSテープ、8mmディスクで記録されている映像資料のデジタル変換を進めた。今回は、このような映像資料のうち、公開判別を「公開可」としている全177本を優先的にデジタル変換した。

3項 震災資料の利用

1 閲覧

「公開判別」で、「公開可」及び「条件付可」とされた一次資料は、閲覧申請を経て即日資料室内で閲覧することができる。なお、「公開可」とされた資料は実物を出納している。「条件付可」とされた資料は、震災資料専門員が複写の上、プライバシー情報を保護して出納している。

平成24年度の一次資料の閲覧申請件数は、25件、201点であった。主に大学教員や学生、研究者等による研究・調査に活用された。また、特別利用申請件数は、3件で、調査・マスコミ取材等に関連するものであった。

2 複写・撮影

平成 24 年度の複写件数は 4 件、撮影件数は 1 件であった。複写の対象となる資料は主として紙資料と写真資料が多い。大学教員や、学生・大学院生などによる研究目的のほか、新聞記事やテレビ番組制作、自治体・企業の広報・パンフレット等での利用を目的としたものがあった。

3 貸出

防災を普及するという目的に限り、今年度も兵庫県広報課の写真や、一般から提供された写真をデータ化して貸出を行った。貸出写真は出版物に活用された場合、成果物を二次資料として資料室で受け入れることもあるため、貸出が資料収集活動にも繋がっている。貸し出した写真資料は、地方自治体が作成する防災パンフレット、広報紙、展示パネルなどに活用された他、テレビや新聞をはじめとしたメディアにおいて、阪神・淡路大震災関連や防災関連の特集などで使用された。

4項 二次資料（図書等刊行物）の収集

二次資料とは図書・雑誌・ビデオ等視聴覚資料などを指す。

(財)21 世紀ひょうご創造協会、(財)阪神・淡路大震災記念協会から引き継いだ約 23,000 点の震災関連資料に加え、阪神・淡路大震災関連や、その他の災害（地震・津波など）の資料、防災関連の資料、その他資料室として必要な参考文献について収集している（参考資料 6-(3) 参照）。

特に、平成 24 年度は、東日本大震災関連の研究論文集の収集に力を入れた。また、東日本大震災の被災自治体が策定した復興計画も積極的に収集した。

II章 資料収集・保存

2節 資料室における相談業務・情報発信

1項 相談業務の意義

資料室への相談は、来室者に留まらず、電話や文書、ときにはメールの形態をとって寄せられる。

資料室開設以来の相談件数は累計で2,000件近くに達し、相談者の相談内容も多岐にわたっている。特に、近年の動向として、相談者の専門分野における高度で詳細な資料の提供を希望するケースが漸増傾向にある。その一方で、自分が住む地域の活断層地図の閲覧をはじめとして、家具の転倒防止に関する資料など、個人からの災害対策、防災・減災についての相談も多かった。

また、今年度も、東日本大震災に関連して、以下のような相談内容が多かった。第一に、東日本大震災における被害状況・復旧や復興状況の比較対象として、阪神・淡路大震災の当時の状況を質問するものである。第二に、今後予想される津波災害に関するものである。この相談内容は、国での議論などが繰り返し報道される中で、新たな津波対策の必要性が広く一般に周知されたため、研究者や報道関係者ではない、一般の方からも相談が寄せられた。さらに、今後予想される津波災害のなかでも、南海トラフでの巨大地震と、それに伴う津波に関する相談が多く寄せられた。特に、ハザードマップや家具の固定方法に代表されるように、生活に密着した事柄に関するものが多数であった。

このように、市民にとって身近な問題から高度で専門的なものまで、年間を通じて寄せられる多くの相談に対してきめ細かく対応することは、阪神・淡路大震災の教訓を発信することを一つの使命とする人と防災未来センター資料室にとって非常に重要な意義がある。

そのため、震災資料専門員には、図書や資料、インターネット等による従来の手順による情報提供だけでなく、他機関等との連携も併せて行い、的確に相談者に提供することが、より一層求められる。資料室では、過去の相談業務の内容をデータベース登録することにより、今後の同様の質問には迅速に対応できるようにしている。

2項 相談業務の主な内容、相談項目

1 相談者地域

相談者地域別内訳は、近畿地方が最も多く、次いで関東地方が多かった。

2 相談者内訳

昨年度の相談者内訳では、報道機関からの質問が最も多かったが、今年度は個人からの相談が最も多く、研究教育機関がこれに次いだ。相談者からは、報道などで近い将来起こると報道されている南海トラフでの巨大地震や東日本大震災とも関連づけて、阪神・淡路大震災を中心とした地震防災全般に関する情報提供を求める傾向があった。

3 相談内容

相談内容としては、1項で述べたように、想定される巨大地震や、東日本大震災、阪神・淡路大震災との比較を求められる相談が多かった。個人からは地元地域のハザードマップや自主防災マニュアルに関するものが目立つ一方、阪神・淡路大震災後における孤独死の

実態など、今後において危惧されていることを問うもの、地震の揺れに関する専門的な質問もあり、多岐に及んだ。研究教育機関からの相談では、避難誘導の手順や防災知識の普及方法、訓練の内容構成に関することを尋ねられることが多かった。昨年度目立った報道機関からの相談は減少したが、具体的な数値を求められることが多かったのは昨年度と同じであった。

相談業務 (平成 24 年度分 No.1965 ~ 1995)

相談者住所内訳

地 域	人 数
北海道・東北	1
関 東	5
信越・北陸	0
東 海	1
近 畿	15
中 国	1
四 国	2
九州・沖縄	0
海 外	0
不 明	6
計	31

相談業務相談者内訳

種 類	人 数
行 政 関 係	2
研 究 教 育 機 関	5
報 道 関 係	2
企 業	2
各 種 団 体	3
個 人	13
外 国	0
当 セ ン タ ー 内	4
そ の 他 (医療関係など)	0
計	31

相談業務相談内容内訳

相談内容	件 数
阪神・淡路大震災関連 (被害状況、復興状況、東日本大震災との比較など)	15
その他災害 (地震・火山・台風など) について	0
外国の災害について	0
防災関連 (防災教育、防災訓練など)	8
建築関係	0
活断層について	0
地震全般について (メカニズムなど)	2
当センターについて	4
資料室の資料貸出に関することについて *ただしビデオ貸出は除く	1
寄贈についての質問	0
医療関連	0
その他 (詩や CD などの質問も含む)	1
計	31

3項 ビデオ・DVDの貸出

営利を目的としない防災学習等に限り、学校・団体等へのビデオ・DVDの貸出を行っている。現在ビデオ22本とDVD27本を貸出用としており、平成24年度は138件(231本)の貸出を行い15,715人が視聴した。

ビデオの貸出先

貸出先別	件数	本数
学校関係	80	130
行政関係	6	10
団体	39	64
企業	14	25
その他(病院など)	0	0
計	139	229

1 貸出先

貸出は学校関係が最も多く、地震についての防災教育や阪神・淡路大震災についての学習資料としての使用が目立つ。そのほか団体や企業内で自主的な防災学習への利用も増加している。

2 貸出地域

地域別の申込では、近畿地方が圧倒的に多く、全体の約73%を占める。続いて関東地方(全体の約9%)、東海地方(全体の約6%)となっている。昨年度は、近畿地方の次に東海地方からの貸出申し込みが多かったが、今年度は、一昨年度と同じように、関東地方からの貸出申し込み割合が再び近畿地方に次ぐ結果となった。

3 貸出ビデオ

貸出用映像記録の中で貸出回数が最も多かったものはDVD『ビジュアル版 幸せ運ぼう [中学生以上]』である。この作品はもともと震災学習用に作成されているため、細かいチャプターに分かれており、目的に応じて映像を選んで構成できる。また付属のCD-Rに副読本や震災当時の新聞記事、写真などが入っており、広く防災教育に活用できるようになっている。他には、救命活動の限界といわれる震災直後72時間に、消防・自治体・警察・病院等がどのように対処したのかを簡潔に30分でまとめたビデオ『震度7 阪神大震災の教訓 ドキュメント神戸72時間の記録』や、今後の地震対策として『地震に備えて今、やるべきこと』の貸出も多かった。昨年度から貸出を開始した東日本大震災関連のDVDでは、巨大地震・大津波の映像と、専門家による解説、震災当日のニュース映像を収録した『東日本大震災の記録』(東北放送制作)の貸出が多かった。

4項 情報発信

1 ホームページ及びインターネット検索について

平成17年度に開始したインターネット検索は今年度も引き続き運用されている。一次資料については、資料によっては画像が閲覧できる。特に、写真資料の画像がインターネッ



<インターネット検索画面>



<ホームページ画像>

トで閲覧できることは遠隔地での貸出申請の際に非常に役立っている。その際、一次資料を検索した際にそれぞれの資料の資料番号が表示されるため、貸出申請や問い合わせにスムーズに対応可能である。また、二次資料は書誌データの他、目次等も表示し、資料の内容を推測しやすくしている。

そして、センターホームページ内の資料収集・保存のトップページでは、お知らせ欄を設け、現在、資料室で開かれている企画展や、資料室ニュース最新号の情報などを発信した。

2 資料室ニュース

資料室では、平成 14 年 9 月から資料室ニュースを発行してきた。

平成 24 年度は各号で特集テーマを企画し、年 3 回、各 2,000 部発行した。紙面の内容は、特集テーマに関する当センター所蔵の震災資料や図書を紹介、また、資料室に関する最新情報などである。

資料室ニュースは、資料室や西館 1 階ロビーで配布しているほか、センターホームページからもダウンロードできるようにしている。

資料室ニュース URL: <http://www.dri.ne.jp/shiryo/news.html>

○今年度の特集テーマ

- ・「豪雨災害に備えて」(平成 24 年 7 月発行、Vol.48)
- ・「センター開設 10 年 資料室の活動と所蔵資料」(平成 24 年 10 月発行、Vol.49)
- ・「市民が撮った東日本大震災 3.11 キロクのキロク写真展」(平成 25 年 3 月、Vol.50)



Vol.48



Vol.49



Vol.50

II章 資料収集・保存

3節 震災資料の活用

1項 震災資料を活用した企画展

平成24年度は、資料室企画展として、東日本大震災の写真展を行った。

企画展「市民が撮った東日本大震災—『3.11キヨクのキロク』写真展—」（開催期間：平成24年12月26日～平成25年3月17日）は、西館2階の防災未来ギャラリーをメイン会場、西館5階の資料室をサブ会場として行った。本企画展では、宮城県の市民から寄せられた東日本大震災に関する写真を集め、『3.11キヨクのキロク』として出版したNPO法人20世紀アーカイブ仙台の協力を得て、約300点の写真と、撮影者のインタビュー文を展示した。また、当センターの資料寄贈者や、展示解説ボランティア、語り部ボランティア、近隣の学生ボランティア団体など、兵庫から東北へ向かった人々が撮影した写真と、写真にまつわる思いも展示し、阪神・淡路大震災のかつての被災地と、東日本大震災の被災地が草の根の活動で繋がっていることを意識させる展示を行った。



〈市民が撮った東日本大震災—『3.11キヨクのキロク』写真展〉

2項 企画展関連行事の実施

企画展「市民が撮った東日本大震災—『3.11キヨクのキロク』写真展—」の関連企画として、平成25年2月9日にフォトトークセッション「3.11を撮るといふこと」を行った。また、東館3階で開催された「震災からよみがえった東北の文化財展」（開催期間：平成24年12月11日～平成25年1月27日）の連動企画として、西館5階の資料室にて、「阪神・淡路大震災の文化財レスキュー・修復保存関連資料展示」（開催期間：平成24年12月12日～平成25年1月27日）を行った。

フォトトークセッションでは、写真集『3.11キヨクのキロク』の編集者である佐藤正実氏、写真提供者として、仙台市から衛藤雅之氏・齋藤高晴氏、石巻市から中山奈保子氏を迎え、東日本大震災以降に撮影された写真の解説をしていただいた。そして、震災を写真という形で記録することについて、また、写真を通して震災体験を後世に伝えることについて、トークセッションのゲスト4名と、阪神・淡路大震災を経験した兵庫の人々が意見を交わした。

また、文化財レスキュー関連展示では、阪神・淡路大震災における文化財の修復・保全作業や、被災した神社仏閣の再建の記録が掲載された図書資料の展示、ならびに、阪神・淡路大震災で被災した生田神社や酒蔵の震災当時と、これらの復旧・復興過程を写真としてパネル展示した。



〈トークセッション「3.11を撮るということ」〉



〈文化財レスキュー展関連展示〉

3項 防災学習用ワークシートの改訂

資料室では、次世代を担う子どもたちの防災学習をより一層進めるために、防災学習用ワークシートを作成している。対象は小学3年生以上である。ワークシートには「No.1 震災ってどんなもの?」「No.2 避難所での暮らし」「No.3 津波ってどんなもの?」「No.4 トルコ北西部地震」があった。

平成24年度は、東日本大震災やその後の議論等を踏まえて「No.3 津波ってどんなもの?」等を改訂することとなった。さらに、近年の気象災害や地球温暖化などに対する社会的関心の高まり等から、「No.5 気象災害への備え」を新たに作成し、ワークシートをNo.1からNo.5の5種類にすることとなった。

ワークシートはセンターホームページからダウンロードできるほか、1階ロビーと資料室に設置している。解答を記入して資料室に持参すると、終了印と解答シート（解説付き）がもらえる、当センターの事前・事後学習をはじめ、校外学習、夏休みの研究など、広く活用されている。平成24年度の改訂により、今後、一層、ワークシートの活用が進むことを期待したい。

4項 ぼうさいみらい子ども文庫

平成22年1月9日、震災の経験と教訓を次代に伝えるため、国際ソロプチミスト神戸より寄付を受け、「ぼうさいみらい子ども文庫」を開設した。児童向けの絵本、カルタ、ビデオ、防災体験ゲーム等を用いて、震災や防災を学べるよう工夫している。

（詳細は、参考資料6-(1)を参照）



II章 資料収集・保存

4節 資料を通じた交流・ネットワーク

1項 他機関との連携事業

今年度も資料室では、他機関との連携による事業を実施し、震災資料の利活用促進を図った。

1 資料の横断検索システムの活用

資料室では平成 21 年 1 月より、資料室収蔵資料と神戸大学附属図書館震災文庫収蔵資料の横断検索システムをホームページ上で公開している。現段階では、資料室収蔵資料のうち図書資料を検索対象としている。今年度も資料室で新規に受け入れた図書資料のデータを更新し、新たに 1,225 件のデータを登録した（総数 37,494 件）。今後も震災資料利用者に横断検索の利用方法を伝えるなどして、さらなる利用者の増加を目指したい。

震災資料横断検索 <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/crosssearch.html>



<震災資料横断検索画面>

2 災害ミュージアム研究塾による他機関との連携

今年度は研究部と共催で「災害ミュージアム研究塾 2012」を開催し、当センターと同様に、全国各地の災害・防災に関する資料収集や展示に取り組んでいる機関とのネットワーク構築を図った。

- ・ 第 1 回：平成 24 年 10 月 20 日
「阪神・淡路大震災 震災資料の 17 年」
講師 高野尚子（当センター 震災資料専門員）
- ・ 第 2 回：平成 24 年 11 月 18 日
「被災経験継承のために一複数の展示拠点とネットワークづくり」
講師 山崎麻里子（長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」）
- ・ 第 3 回：平成 24 年 12 月 16 日
「東日本大震災の文化財レスキューと展示活動」
講師 前川さおり（遠野文化センター）
若月憲夫（震災からよみがえった東北の文化財展実行委員）

- ・ 第4回：平成25年1月26日
「地域を拠点とした被災経験の継承—阪神・淡路大震災と東日本大震災—」
講師 高田由貴子（おらが大槌夢広場）
河合節二（野田北部・たかとり震災資料室）
内屋敷保（神戸市立地域人材センター）
山住勝利（神戸市立地域人材センター）
寺沢正敏（地域連携サポーター）
- ・ 第5回：平成25年2月10日
「長田区役所職員による阪神・淡路大震災の記憶継承の取り組み—人・街・ながた震災資料室の事例—」
講師 寿広文（人・街・ながた震災資料室）
清水誠一（人・街・ながた震災資料室）
武川泰恵（人・街・ながた震災資料室）
水本浩典（神戸学院大学人文学部）
- ・ 第6回：平成25年3月9日
「災害記念館からジオミュージアムへ」
講師 杉本伸一（雲仙岳災害記念館・第5回ジオパーク国際ユネスコ会議事務局）

さらに、平成25年3月24日から25日にかけて、新潟県中越地震における震災記録活動や展示の現状に関する情報提供のため、現地を調査した。また、中越地震に関する展示を行っている「中越メモリアル回廊」を訪問し、視察するとともに、今後の連携構築に向けた意見交換を行った。

2項 震災資料専門員による講義

神戸学院大学での講義

主 催：神戸学院大学

実施日：平成24年12月20日

テーマ：「震災資料の収集・保存と活用」

担当者：高野尚子、石原凌河（震災資料専門員）

神戸学院大学防災・社会貢献ユニット開講の「防災論Ⅰ」の1講義を担当した。講義では、センター所蔵資料の収集経緯や資料の概要を伝えるとともに、資料の様々な活用事例を報告した。また、東日本大震災の被災地において、震災遺構を残すべきかどうか問題となっていることにも触れ、保存と撤去に関する様々な意見を紹介した。講義の最後には、参加学生からの質疑応答やディスカッションの時間も設け、講義内容について考察を深めた。

3項 震災資料の研修会・研究会

資料室では、震災資料に関する研究会等において、資料室業務の課題および震災資料の活用に関する発表を行い、他機関との交流を図っている。

(1) 第12回 阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する地域連携研究会

主 催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

阪神・淡路大震災 資料の保存・活用に関する研究会

実施日：平成24年7月2日

実施場所：神戸大学大学院人文学研究科

伊丹市立博物館と当センターから刊行された、阪神・淡路大震災関連の資料を活用した資料集を読み深め、資料活用の方策について議論を交わした。発表者と内容は以下の通りである。

①板垣貴志（神戸大学大学院人文学研究科）

書評『阪神・淡路大震災における住まいの再建—論説と資料—』

（人と防災未来センター資料室、2012）

②石原凌河（阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室）

書評『伊丹からの発信 本文編』（伊丹市立博物館、2012）

(2) 第13回 阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する地域連携研究会

主 催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

阪神・淡路大震災 資料の保存・活用に関する研究会

実施日：平成25年2月19日

実施場所：人と防災未来センター西館5階セミナールーム

阪神・淡路大震災の資料に関する課題に加え、新潟県長岡市に開設された、東日本大震災被災者のための避難所での資料収集についての報告も行われた。当センターからは、資料保存環境向上の取り組みについて報告した。発表者と内容は以下の通りである。

①田中洋史（長岡市立中央図書館文書資料室）

「東日本大震災の避難所アーカイブはなぜ可能だったのか～長岡市立中央図書館文書資料室の取り組み～」

②高森順子（阪神大震災を記録しつづける会）

「阪神大震災を記録しつづける会の活動」

③石原凌河（人と防災未来センター資料室）

「人と防災未来センターにおける資料保存環境向上のための取り組み」

4項 他機関によるセンター視察

資料室では、大学や各種団体などの他機関から視察を受け、震災資料の収集・保存について説明を行っている。また、資料の保存・活用など互いに抱える課題についての意見交換や阪神・淡路大震災に関する資料提供等の相談を受けている。

今年度は以下の団体からの訪問を受けた。特に、東日本大震災での被災地で震災資料収集に関わっている機関から多くの視察を受けた。

・いわき明星大学（平成24年4月15日、平成25年1月12日）

・盛岡大学（平成24年5月8日）

- ・ もりおか復興サポートオフィス（平成 24 年 6 月 15 日）
- ・ 関西学院大学（平成 24 年 7 月 20 日）
- ・ 長岡市立中央図書館文書資料室（平成 24 年 7 月 24 日）
- ・ おらが大槌夢広場（平成 24 年 10 月 2 日）
- ・ 立命館大学（平成 24 年 10 月 6 日）
- ・ 讀賣テレビ放送株式会社（平成 25 年 1 月 10 日）
- ・ NHK 放送文化研究所（平成 25 年 2 月 26 日）
- ・ 気仙沼復興協会（平成 25 年 2 月 26 日）
- ・ 宮城県図書館（平成 25 年 3 月 7 日）

5項 センターから他機関への視察・セミナーへの参加等

資料室では、直面している様々な課題を解決すべく関係機関の視察やセミナーの参加を行っている。専門の職員との意見交換や、研究会などへの参加により、課題の解決方策の参考とした。平成 24 年度の活動は以下のとおりである。

- ・ 神戸大学附属図書館震災文庫（平成 24 年 5 月 15 日）
- ・ 文化財虫害研究所（第 34 回文化財の虫菌害・保存対策研修会、平成 24 年 6 月 18 日・19 日）
- ・ 埼玉県立文書館（平成 24 年 7 月 4 日）
- ・ プリザベーション・テクノロジーズ・ジャパン（脱酸処理見学、平成 24 年 7 月 4 日）
- ・ 神戸市立地域人材支援センター（平成 24 年 9 月 20 日）
- ・ 野田北部・たかとり震災資料室（平成 24 年 9 月 26 日）
- ・ 河内長野市立図書館（平成 24 年 10 月 30 日）
- ・ 広島県立文書館及び第 38 回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会（平成 24 年 11 月 8 日）
- ・ 広島市江波山気象館（平成 24 年 11 月 9 日）
- ・ 新潟大学（新潟県中越地震から東日本大震災へー被災歴史資料の保全・活用の新しい方法をさぐる一、平成 24 年 11 月 10 日）
- ・ 新潟県立歴史博物館（平成 24 年 11 月 11 日）
- ・ 長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」（平成 24 年 11 月 11 日、平成 25 年 3 月 25 日）
- ・ 人・街・ながた震災資料室（秋の企画展、平成 24 年 11 月 26 日）
- ・ 防災科学技術研究所（第 4 回 3 1 1 自治体アーカイブ会議、平成 25 年 2 月 15 日）
- ・ 神戸大学社会科学系図書館（第 2 回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会、平成 25 年 3 月 8 日）
- ・ NHK 放送文化研究所 2013 年春の研究発表とシンポジウム（3.11 震災アーカイブ活用の可能性～防災・減災、復興にいかすために、平成 25 年 3 月 15 日）
- ・ 中越メモリアル回廊（平成 25 年 3 月 24 日～ 25 日）
- ・ 長岡市立中央図書館文書資料室（平成 25 年 3 月 25 日）